

ファーストイーサネット・インテリジェント・スイッチ

# CentreCOM® 8016XL

## 取扱説明書



CentreCOM **8016XL**

---

# 取扱説明書

# 安全のために



必ずお守りください

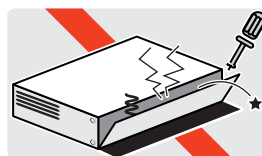


## 警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

### 分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

### 雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

### 異物はいれない 水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

### 通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

### 湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

### 表示以外の電圧では使用しない

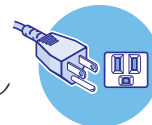
火災や感電の原因となります。  
本製品は AC100 - 240V で動作します。  
なお、本製品に付属の電源ケーブルは 100V 用ですのでご注意ください。



電圧注意

### 正しい電源ケーブル・コンセントを使用する

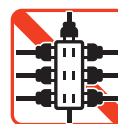
不適切な電源ケーブル・コンセントは火災や感電の原因となります。  
接地端子付きの3ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの3ピン電源コンセントに接続してください。



3ピン  
コンセント

### コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

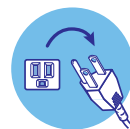
たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

## 設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを  
抜け

## 電源ケーブルを傷つけない

火災や感電の原因となります。

電源ケーブルやプラグの取扱上の注意：

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものを載せない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・電源ケーブルをコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

## 光源をのぞきこまない

目に傷害を被る場合があります。

光ファイバーケーブルのコネクター、ケーブルの断面、製品本体のコネクターなどをのぞきこまないでください。



のぞかない

# ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度 80%以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュースを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



## 静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



## 取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつかけたり、強いショックを与えないでください。



# お手入れについて

## 清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



## 機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらすな



中性洗剤  
使用



強く絞る

## お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん  
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー  
類不可

---

## ご注意

本書の中に含まれる情報は、当社(アライドテレシス株式会社)の所有するものであり、当社の同意なしに、全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

当社は、予告無く本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。

また、改良のため製品の仕様を予告無く変更することがあります。

Copyright © 2003 アライドテレシス株式会社

---

## 商標について

CentreCOMは、アライドテレシス株式会社の登録商標です。

Windows、Windows NTは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

本書の中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

---

## 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

---

## マニュアルバージョン

2003年 12月 Rev.A 初版

# はじめに

このたびは、CentreCOM 8016XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本製品は、高さ1U(約45mm)サイズの筐体に10BASE-T/100BASE-TXポートを16ポート装備したファーストイーサネット・インテリジェント・スイッチです。

拡張モジュール用スロットを1つ装備し、オプションとして3種類(100BASE-TX/1000BASE-T, 1000BASE-SX/SC, 1000BASE-LX/SC)の拡張モジュールが実装できます。

Telnetやコンソールポートから各機能の設定が可能で、ユーザーインターフェースは、メニュー形式とコマンドライン形式の2種類をサポートしています。

また、SNMP機能の装備により、SNMPマネージャーから各種情報を監視・設定することができます。

# はじめに

---

## マニュアルの構成

本製品のマニュアルは、次の3部で構成されています。

各マニュアルをよくお読みのうえ、本製品を正しくご使用ください。また、お読みになった後も、製品保証書とともに大切に保管してください。

### ○ 取扱説明書

本製品の概要、設置と接続、本製品に設定を行うための手順と基本的な操作方法など、本製品を使い始めるにあたっての最低限の情報が記載されています。

### ○ オペレーションマニュアル(CD-ROM)

各機能の解説、メニューとコマンドの使用方法など、本製品の設定項目に関するすべての情報が記載されています。

### ○ リリースノート

ファームウェアのバージョンアップで追加された機能、変更点、注意点や、取扱説明書とオペレーションマニュアルの内容を補足する最新の情報が記載されています。ファームウェアのバージョンによっては、添付されない場合もあります。





取扱説明書とオペレーションマニュアルは、本製品のファームウェアバージョン「4.1.0J」をもとに記述されていますが、「4.1.0J」よりも新しいバージョンのファームウェアが搭載された製品に同梱されることがあります。その場合は、必ずリリースノートをお読みください。リリースノートには、重要な情報や最新の情報が記載されています。




## 表記について

本書の表記ルールを以下に示します。

### アイコン

アイコン	意味
 ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
 注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
 警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
 参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

### 書体

書体	意味
Screen displays	画面に表示される文字は、タイプライター体で表します。
<b>User Entry</b>	ユーザーが入力する文字は、太字タイプライターで表します。
	四角枠で囲まれた文字はキーを表します。

### 製品名の表記

「本製品」と表記している場合は、CentreCOM 8016XL を意味します。場合によっては、8016XL のように CentreCOM を省略して記載します。

# 目次

安全のために .....	4
はじめに .....	7
マニュアルの構成 .....	8
表記について .....	9
<b>1 お使いになる前に</b> .....	<b>13</b>
1.1 梱包内容 .....	14
1.2 特長 .....	15
ハードウェア .....	15
サポート機能 .....	16
1.3 各部の名称と働き .....	18
前面 .....	18
背面 .....	20
側面 .....	21
1.4 LED表示 .....	22
ポートLED .....	22
ステータスLED .....	23
<b>2 設置と接続</b> .....	<b>25</b>
2.1 設置するときの注意 .....	26
2.2 オプションを利用して設置する .....	27
19インチラックに取り付ける .....	27
壁面に取り付ける .....	27
2.3 ネットワーク機器を接続する .....	28
ケーブル .....	28
2.4 コンソールを接続する .....	29
コンソール .....	29
ケーブル .....	29
2.5 電源ケーブルを接続する .....	30

## 3 設定の手順 31

---

3.1 操作の流れ .....	32
3.2 設定の準備 .....	33
コンソールターミナルを設定する .....	33
本製品を起動する .....	34
3.3 ログインする .....	35
ログインする .....	35
ログインパスワードを変更する .....	36
3.4 設定を始める .....	37
コマンドの入力と画面 .....	37
オンラインヘルプ .....	40
コマンドの表記 .....	41
コマンド一覧 .....	42
3.5 設定を保存する .....	45
設定を保存する .....	45
設定内容を確認する .....	46
3.6 ログアウトする .....	47

## 4 基本の設定と操作 49

---

4.1 IPアドレスを設定する .....	50
手動でIPアドレスを設定する .....	50
DHCPでIPアドレスを自動設定する .....	51
4.2 Telnetで接続する .....	53
Telnetでログインする .....	53
TelnetサーバーのTCPポート番号を変更する .....	54
Telnetの最大セッション数を変更する .....	54
指定したシステムにTelnet接続する .....	55
4.3 アップロード/ダウンロードする .....	56
Xmodemでダウンロードする .....	56
FTPでアップロード/ダウンロードする .....	58
TFTPでアップロード/ダウンロードする .....	60
4.4 システム名を設定する .....	62
4.5 SNMPで管理する .....	63

# 目次

4.6	メニュー形式で設定する .....	67
	メニュー形式での入力と画面 .....	68
	設定を保存する .....	69
	ログアウトする .....	69
4.7	再起動する .....	70
4.8	設定を工場出荷時の状態に戻す .....	71
4.9	デフォルト設定 .....	73
<b>5</b>	<b>付 録</b> .....	<b>75</b>
5.1	困ったときに .....	76
	セルフテストの結果を確認する .....	76
	LED表示を確認する .....	76
	トラブル例 .....	77
5.2	拡張モジュール .....	80
	拡張モジュールの種類 .....	80
	拡張モジュールの取り付けかた .....	81
5.3	ハイパーターミナルの設定 .....	83
5.4	Telnet クライアントの設定 .....	86
5.5	仕 様 .....	89
	コネクター・ケーブル仕様 .....	89
	本製品の仕様 .....	91
5.6	保証とユーザーサポート .....	92
	保証 .....	92
	ユーザーサポート .....	92
	サポートに必要な情報 .....	92

# 1

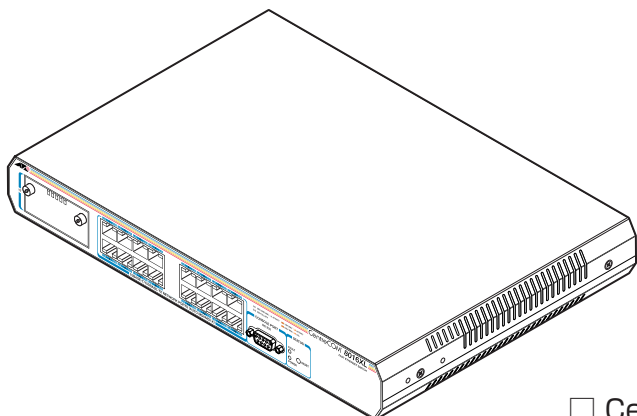
## お使いになる前に

---

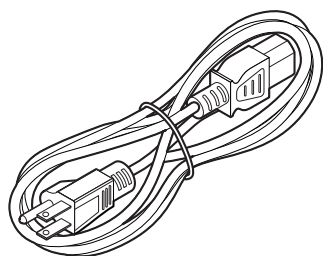
この章では、本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働きについて説明しています。

# 1.1 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認してください。

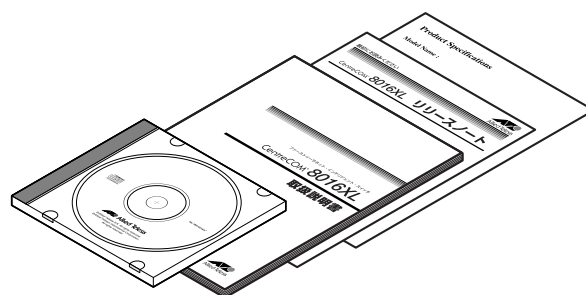


- CentreCOM 8016XL本体 1台



- 電源ケーブル(1.8m) 1本

※ 同梱の電源ケーブルはAC100V用です。  
AC200Vでご使用の場合は、設置業者にご相談ください。



- 製品仕様書(英文) 1枚
- リリースノート 1部※
- 取扱説明書(本書) 1冊
- CD-ROM 1枚

※ ファームウェアのバージョンによっては、添付されない場合もあります。



- 製品保証書 1枚
- シリアル番号シール 2枚

本製品を移送する場合は、ご購入時と同じ梱包箱で再梱包されることが望めます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

# 1.2 特長

本製品の主な特長は次のとおりです。

---

## ハードウェア

本製品のハードウェア的な特長とオプション(別売)製品を紹介します。

- 19 インチラック 1U サイズ(幅 341mm ×奥行 231mm ×高さ 44mm)
- 10BASE-T/100BASE-TX ポートを 16 ポート装備
- 拡張スロットを装備

## オプション(別売)

- 拡張モジュールによりポートの拡張が可能  
AT-A50 100BASE-TX/1000BASE-T ポート× 1  
AT-A51 1000BASE-SX/SC ポート× 1  
AT-A53 1000BASE-LX/SC ポート× 1
- 19 インチ・ラックマウントキットで EIA 標準の 19 インチラックに取り付け可能  
AT-RKMT-J09
- 壁設置用ブラケットで壁面への取り付けが可能  
AT-BRKT-J22
- 壁設置用磁石でスチール面への取り付けが可能  
マグネット Kit XS
- 電源ケーブルの抜けを防止  
AT-RTNR-01

## 1.2 特長

### サポート機能

本製品の主な機能は次のとおりです。サポートする機能はファームウェアのバージョンに依存しますので、詳細については最新のリリースノートやデータシートをご覧ください。

#### マネージメント

- SNMP v1
- RMON(1,2,3,9 グループ)
- ターミナル(Telnet/VT100 互換端末)
- コマンドライン形式とメニュー形式の2種類のユーザーインターフェース

#### スイッチング

- MDI/MDI-X 自動切替(オートネゴシエーション時に有効)  
ポートごとに MDI、または MDI-X の固定設定も可能
- フローコントロール(IEEE802.3x PAUSE/PAUSE フレームの受信のみ)
- ブロードキャストパケットフィルタリング
- MAC アドレスフィルタリングによるポートセキュリティ
- IGMP v2 スヌーピング
- ポートトラッキング
- RRP/VRRP スヌーピング
- HOL ブロッキング防止(常時有効)
- ポートミラーリング
- IEEE 802.1Q 準拠のタグ VLAN・マルチプル VLAN
- IEEE 802.1p 準拠の QoS
- IEEE 802.1D 準拠のスパニングツリー
- 最大 8K の MAC アドレス登録
- MAC アドレスのスタティックエントリー

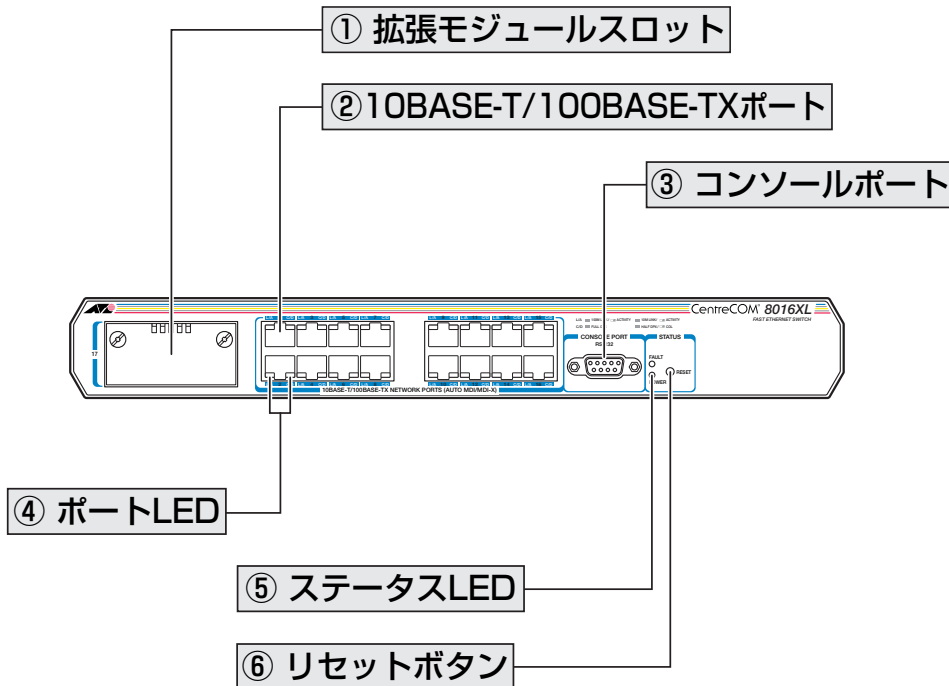


## 運用・管理

- 本製品宛の IP フィルター
- DHCP クライアント機能
- ログ(RAM 上、および syslog サーバーへの出力が可能)
- Xmodem/TFTP/FTP によるファームウェアのアップロード/ダウンロード  
(Xmodem はダウンロードのみ可能)
- Xmodem/TFTP/FTP による設定ファイルのアップロード/ダウンロード  
(Xmodem はバイナリー形式のダウンロードのみ可能)

# 1.3 各部の名称と働き


## 前面



### ① 拡張モジュールスロット

オプション(別売)の拡張モジュールを装着するスロットです。

標準装備では、カバーパネルが取り付けられています。カバーパネルは、拡張モジュールを装着するとき以外ははずさないようにしてください。

 80 ページ「拡張モジュール」

### ② 10BASE-T/100BASE-TX ポート

UTPケーブルを接続するコネクタ(RJ-45)です。


ケーブルは 10BASE-Tの場合はカテゴリ 3以上、100BASE-TXの場合は、カテゴリ 5以上の UTPケーブルを使用します。

通信モードは、デフォルトでオートネゴシエーション(Auto negotiate)が設定されています。オートネゴシエーションの場合、MDI/MDI-X自動切替機能が有効になり、接続先のポートの種類(MDI/MDI-Xに関わらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

### ③ コンソールポート

コンソールを接続するコネクタ(D-Sub 9ピン メス)です。

ケーブルは RS-232ストレートケーブルを別途ご用意ください。

 29 ページ「コンソールを接続する」

#### ④ ポート LED


10BASE-T/100BASE-Tポートと接続先の機器の通信状況を表示する LED ランプです。

##### ○ L/A(Link/Activity)

通信速度 (10/100Mbps)、接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表します。

##### ○ C/D(Collision/Duplex)

デュプレックス (Half/Full Duplex)、コリジョンの発生を表します。

 22 ページ 「LED 表示」

#### ⑤ ステータス LED


本製品全体の状態を表示する LED ランプです。

##### ○ FAULT

本製品またはファームウェアの異常を表します (点灯)。起動時はセルフテスト実行中、運用時はフラッシュ ROM に書き込み中であることを表します (点滅)。

##### ○ POWER

電源供給状態を表します。

 22 ページ 「LED 表示」

#### ⑥ リセットボタン

本製品を再起動するためのボタンです。

先の細い棒などでリセットボタンを押すと、本製品はハードウェア的にリセットされます。

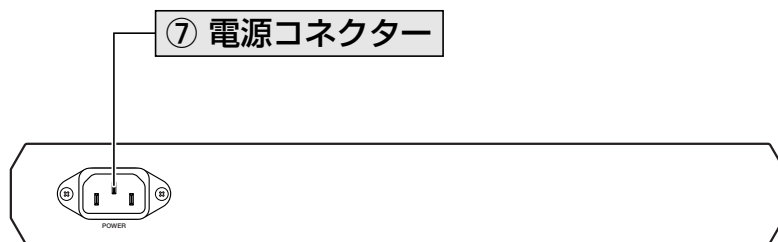


鋭利なもの (縫い針など) や通電性のある物で、リセットボタンを押さないでください。

注意

## 1.3 各部の名称と働き


### 背面



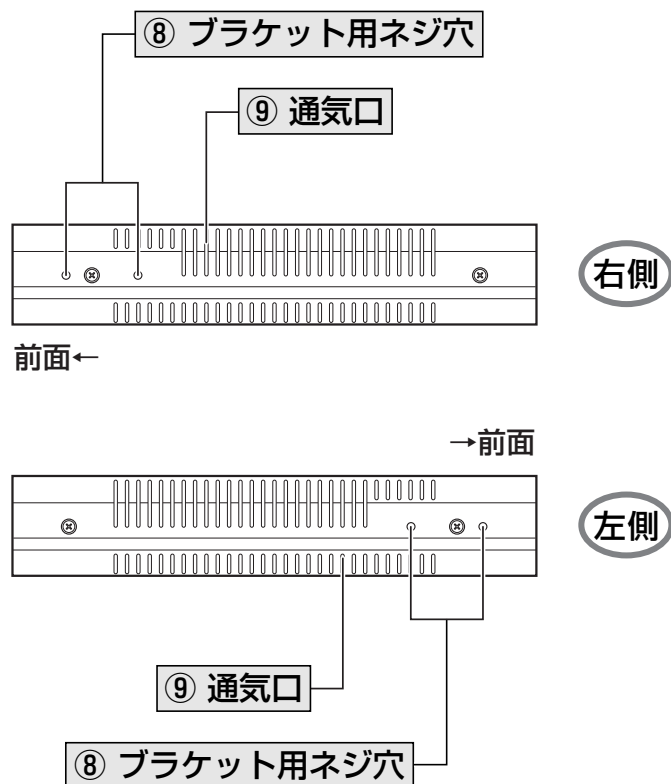
#### ⑦ 電源コネクター

AC電源ケーブルを接続するコネクターです。

同梱の電源ケーブルは AC100V用です。AC200Vでご使用の場合は、設置業者にご相談ください。


 30 ページ「電源ケーブルを接続する」

## 側面



### ⑧ ブラケット用ネジ穴

19インチ・ラックマウントキットのブラケットを取り付けるためのネジ穴です。オプション(別売)の19インチ・ラックマウントキット「AT-RKMT-J09」を使用します。

 27ページ「オプションを利用して設置する」

### ⑨ 通気口

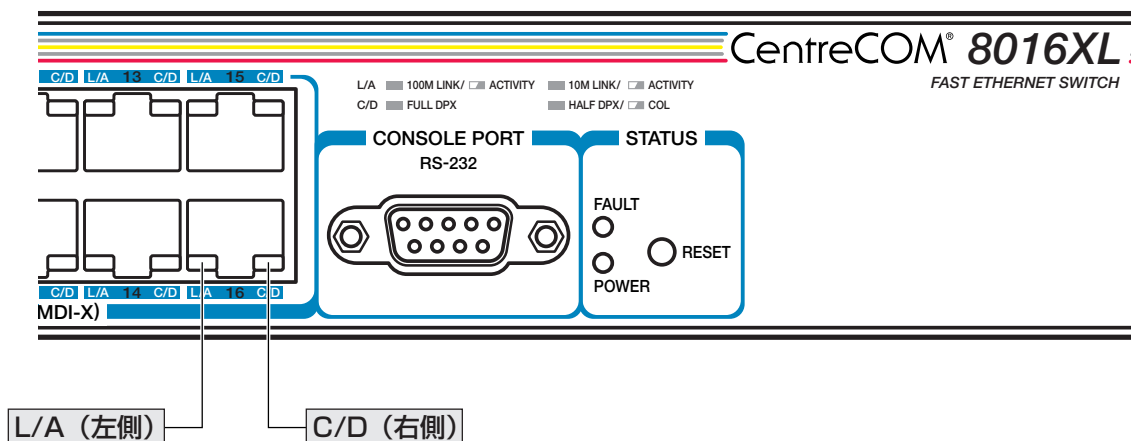
換気により、本製品内部の熱を逃すための穴です。



通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

# 1.4 LED 表示

本体前面には、本製品全体や各ポートの状態を示す LED ランプがついています。



## ポート LED

2種類のLEDランプで各ポートの状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	100Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	100Mbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	10Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	10Mbpsでパケットを送受信しています。
—	消灯	リンクが確立していません。	
C/D	緑	点灯	Full duplexでリンクが確立しています。
		点灯	Half duplexでリンクが確立しています。
	橙	点滅	コリジョンが発生しています。
		消灯	リンクが確立していません。

## ステータスLED

2種類のLEDランプで本製品全体の状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
FAULT	赤	点灯	本製品に異常があります。
		点滅	セルフテスト実行中です。(起動時) フラッシュROMに書き込みを行っています。(運用時) Xmodemでファイルを転送中です。
	—	消灯	本製品に異常はありません。
POWER	緑	点灯	本製品に電源が供給されています。
	—	消灯	本製品に電源が供給されていません。





# 2

## 設置と接続

---

この章では、本製品の設置方法と機器の接続について説明しています。

## 2.1 設置するときの注意

本製品の設置や保守を始める前に、必ず4ページの「安全のために」をよくお読みください。

設置については、次の点にご注意ください。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような配置は避けてください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。
- 横置きの場合は、傾いた場所や不安定な場所に設置しないでください。
- 本製品の上に物を置かないでください。
- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 本製品は屋外ではご使用になれません。
- コネクターの端子に触らないでください。静電気を帯びた手(体)でコネクターの端子に触れると静電気の放電により故障の原因になります。
- 19 インチラックや壁面に設置する際は、正しいブラケット、もしくはマグネットKitを使用してください。

## 2.2 オプションを利用して設置する

本製品は机上に設置する以外にも、オプションを使用することによりEIA規格の19インチラックや壁面に取り付けることができます。取り付け方法については、各製品に付属の取扱説明書を参照してください。

---

### 19インチラックに取り付ける

19インチラックに取り付けるにはオプション(別売)の19インチ・ラックマウントキット「AT-RKMT-J09」を使用します。

---

### 壁面に取り付ける

壁面に取り付けるには以下のオプションを使用します。

- 壁設置ブラケット「AT-BRKT-J22」を使用して壁面に取り付ける
- 壁設置用磁石「マグネットKit XS」を使用してスチール面に取り付ける

設置可能な方向については弊社ホームページでご確認ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>



「AT-BRKT-J22」に取り付け用ネジは同梱されていません。別途ご用意ください。



本製品を壁面に取り付ける際は、「AT-BRKT-J22」に適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

## 2.3 ネットワーク機器を接続する

本製品にコンピューターを接続します。

### ケーブル

#### UTP ケーブルのカテゴリ

10BASE-T の場合はカテゴリ-3 以上、100BASE-TX の場合はカテゴリ-5 以上の UTP ケーブルを使用します。



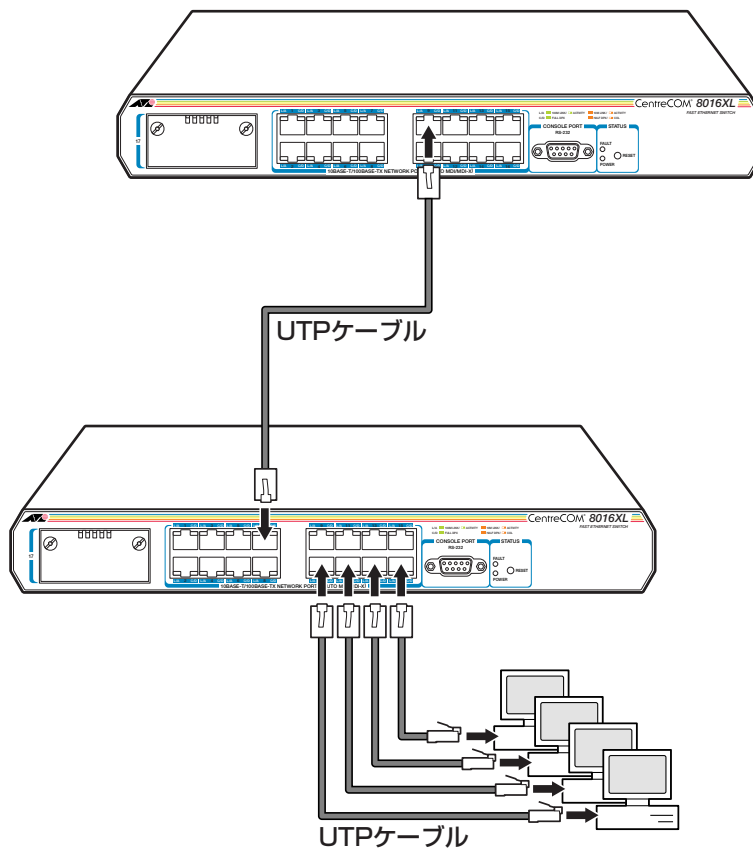
ヒント 本製品は弊社販売品のシールド付カテゴリ-5(ストレート)ケーブルにも対応しています。

#### UTP ケーブルのタイプ

本製品はMDI/MDI-X 自動切替機能をサポートしています。10BASE-T/100BASE-TX ポートの通信モードがオートネゴシエーションの場合、MDI/MDI-X 自動切替機能が有効になり、接続先のポートの種類(MDI/MDI-X)に関わらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

#### UTP ケーブルの長さ

本製品とネットワーク機器を接続するケーブルの長さは100m 以内にしてください。



## 2.4 コンソールを接続する

本製品に設定を行うためのコンソールを接続します。本体前面コンソールポートとコンソールのシリアルポートを、RS-232 ストレートケーブルで接続します。

### コンソール

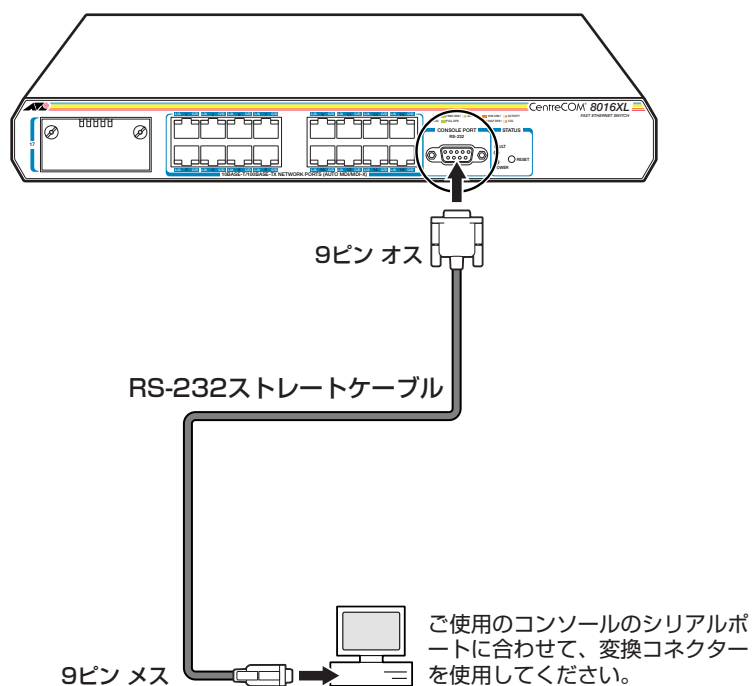
コンソールには、VT100 をサポートした通信ソフトウェアが動作するコンピューター、または非同期のRS-232 インターフェースを持つVT100 互換端末を使用してください。



通信ソフトウェアの設定については、33ページ「コンソールターミナルを設定する」で説明します。

### ケーブル

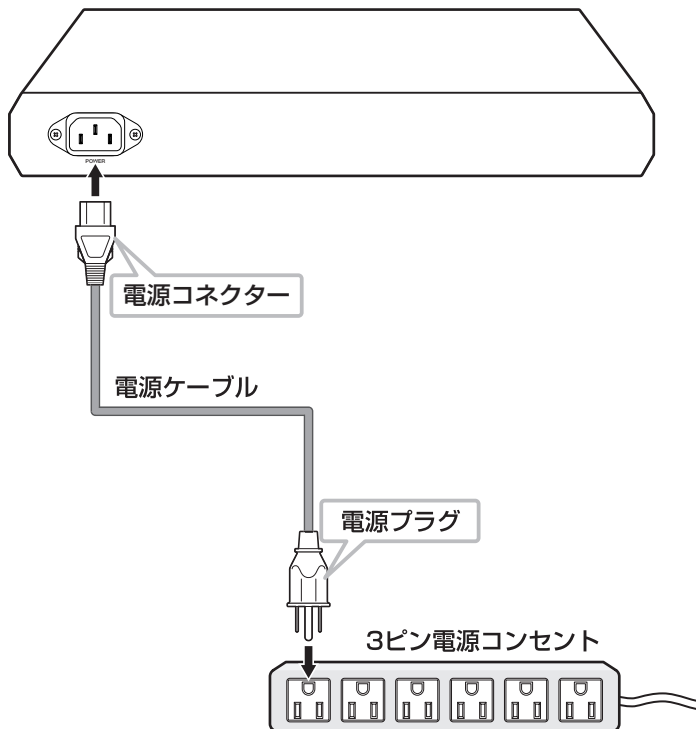
ケーブルはRS-232 ストレートケーブル(9ピン オス/9ピン メス)を使用します。接続する機器に合わせて、別途変換コネクタを用意してください。



## 2.5 電源ケーブルを接続する

本製品は、電源ケーブルを接続すると、自動的に電源が入ります。

- 1 電源ケーブル(電源コネクタ)を本体背面の電源コネクタに接続します。
- 2 電源ケーブルの電源プラグを電源コンセントに接続します。
- 3 電源が入ると、本体前面ステータスLEDのPOWER LED が緑に点灯します。



電源を切る場合は、電源プラグを電源コンセントから抜きます。



本製品を AC100V で使用する場合は、同梱の電源ケーブルを使用してください。AC200V で使用する場合は、設置業者にご相談ください。

不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。



電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあげてください。

# 3

## 設定の手順

---

この章では、本製品に設定を行うための手順と、基本的な操作方法について説明しています。

## 3.1 操作の流れ

### STEP 1 コンソールを接続する


RS-232ストレートケーブルで、本体前面のコンソールポートとコンソールのシリアルポートを接続します。

 [29ページ「コンソールを接続する」](#)



### STEP 2 コンソールターミナルを設定する

コンソールの通信ソフトウェアを本製品のインターフェース仕様に合わせて設定します。

 [33ページ「コンソールターミナルを設定する」](#)



### STEP 3 ログインする

「ユーザー名」と「パスワード」を入力してログインします。  
ユーザー名は「Manager」、初期パスワードは「friend」です。  
ユーザー名は大文字・小文字を区別しません。パスワードは大文字・小文字を区別します。

Login: **manager** . . . 「manager」と入力して **[Enter]** キーを押します。

Password: **friend** . . . 「friend」と入力して **[Enter]** キーを押します。

 [35ページ「ログインする」](#)




### STEP 4 設定を始める

Manager% . . . プロンプトの後にコマンドを入力します。

メニュー形式で設定を行う場合は . . .

Manager% **menu** . . . 「menu」と入力して **[Enter]** キーを押します。

 [67ページ「メニュー形式で設定する」](#)



### STEP 5 設定を保存する

Manager% **save** . . . 「save」と入力して **[Enter]** キーを押します。

⇒ メニューの場合は、メインメニューから [Save] を選択します。

 [45ページ「設定を保存する」](#)



### STEP 6 ログアウトする

Manager% **quit** . . . 「quit」と入力して **[Enter]** キーを押します。

⇒ メニューの場合は、メインメニューから [Quit] を選択します。

 [47ページ「ログアウトする」](#)



## 3.2 設定の準備

### コンソールターミナルを設定する

本製品に対する設定は、コンソールポートに接続したコンソール、またはネットワーク上のコンピューターからTelnet を使用して行います。

コンソールターミナル(通信ソフトウェア)に設定するパラメーターは次のとおりです。

項目	値
通信速度	9,600bps
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	ハードウェア
エミュレーション	VT100
BackSpace キーの使い方	Ctrl + H



ヒント

通信ソフトウェアとして、Windows 95/98/Me/2000/XP、Windows NTに標準装備のハイパーターミナルを使用する場合は、83 ページ「ハイパーターミナルの設定」を参照してください。



ヒント


Telnetを使用する場合は、あらかじめローカルから本製品にIPアドレスを割り当てておく必要があります。

 参照 50 ページ 「IP アドレスを設定する」

 参照 53 ページ 「Telnet で接続する」

## 3.2 設定の準備

### 本製品を起動する

- 1 コンピューター(コンソール)の電源を入れ、ハイパーターミナルなどの通信ソフトウェアを起動します。
- 2 本製品の電源を入れます。  
 30 ページ「電源ケーブルを接続する」
- 3 Boot プログラムが起動し、セルフテストを行った後システムソフトウェアが起動します。

```
BOOT Ver3.8

RAM Test...OK

Hit any key to run diagnostics or to reload system software.....

Decompressing System Software, please wait.....
Done.  Initializing System

Checking Product Type

Reading Config Data

Initializing Switching System

Initializing Ethernet Controller

Starting System ...

(press RETURN once or twice to enter User Interface)
```

- 4 「(press RETURN once or twice to enter User Interface) 」と表示されたら、キーを押します。
- 5 「Login: 」プロンプトが表示されます。

## 3.3 ログインする

### ログインする

本製品には、権限によってMANAGER（管理者）とUSER（一般ユーザー）の2つのユーザーレベルがあります。デフォルトでは、MANAGERレベルのユーザーアカウント「Manager」のみが登録されています。

- 1 「Login: 」プロンプトが表示されたら、ユーザー名「Manager」を入力します。ユーザー名は大文字/小文字を区別しません。

```
Login: manager [Enter]
```

- 2 「Password: 」プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。初期パスワードは、「friend」です。パスワードは大文字/小文字を区別します。実際の画面では入力した文字は「\*」で表示されます。

```
Password: friend [Enter]
```

- 3 システム情報の後、「Manager% 」プロンプトが表示されます。本製品に対する設定や管理は、このプロンプトの後にコマンドを入力することにより行います。

```
Allied Telesis CentreCOM 8016XL Ethernet Switch
MAC Address 000941 592036, Uplink A: Not present
AT-S59 Ethernet Switch Software: Version 4.1.0J B08 030829
SIGMA command shell version 1.4
Running 13 minutes, 48 seconds
Manager%
```

ユーザー名またはパスワードが間違っている場合は、次のメッセージが表示されてログインできません。再度「Login: 」プロンプトに続けて、正しいユーザー名とパスワードを入力してください。

```
Login incorrect
Login:
```



ヒント

ログインセッション数はローカル、リモート(Telnet)合わせて5つまで(Telnetのセッション数は1~4までで変更可能、デフォルトは2つ)です。現在ログインしているユーザーは、SHOW USER コマンドで確認できます。



ヒント

複数のMANAGERレベルのユーザーが、本製品に同時にログインすることはできません。また、MANAGERレベルのログインは、ローカルが優先されます。MANAGERレベルのユーザーがリモートログインしているときに、別のMANAGERレベルのユーザーがローカルログインした場合、リモートログインしていたユーザーのログインセッションは強制的に切断されます。

## 3.3 ログインする

### ログインパスワードを変更する

ログインパスワードの変更を行います。セキュリティ確保のため、デフォルトのパスワードは変更することをお勧めします。

#### 使用コマンド

##### SET PASSWORD

- 1 MANAGER レベルでログインします。実際の画面では、入力したパスワードは「\*」で表示されます。

```
Login: manager [Enter]
Password: friend [Enter]
```

- 2 パスワードの設定を行います。

```
Manager% set password [Enter]
```

- 3 現在のパスワードを入力します。  
ここでは、初期パスワードの「friend」を入力します。実際の画面では入力したパスワードは「\*」で表示されます。

```
Old password: friend [Enter]
```

- 4 新しいパスワードを入力します。  
6～20 文字の半角英数字および記号で入力してください。パスワードは大文字/小文字を区別します。  
ここでは新しいパスワードを「openENDS」と仮定します。

```
New password: openENDS [Enter]
```

- 5 確認のため、新しいパスワードを再度入力します。

```
Retype new password: openENDS [Enter]
```

- 6 パスワードの変更に成功すると、次のメッセージが表示されます。

```
Info: Password changed.
```

パスワードの確認に失敗すると、次のメッセージが表示されます。手順4に戻り、パスワードを入力しなおしてください。

```
Mismatch; try again, EOF to quit.
New password:
```



パスワードは忘れないように注意してください。

注意

## 3.4 設定を始める

### コマンドの入力と画面

#### コマンドライン編集キー

コマンドラインでは、以下の編集機能を使うことができます (VT100 互換のターミナルが必要です)。

機能	ターミナルのキー
カーソル位置の左1文字を削除	<code>Ctrl</code> + <code>H</code> / <code>Backspace</code>
カーソル位置の1文字を削除	<code>Ctrl</code> + <code>D</code>
カーソルのある行全体を削除	<code>Ctrl</code> + <code>U</code>
カーソル位置から後ろの文字列を削除	<code>Ctrl</code> + <code>K</code>
カーソルを左へ移動	<code>Ctrl</code> + <code>B</code> / <code>←</code>
カーソルを右へ移動	<code>Ctrl</code> + <code>F</code> / <code>→</code>
カーソルを行の先頭へ移動	<code>Ctrl</code> + <code>A</code> / <code>Home</code>
カーソルを入力文字列の最後へ移動	<code>Ctrl</code> + <code>E</code> / <code>End</code>
前のコマンドを表示 (履歴を戻る)	<code>Ctrl</code> + <code>P</code> / <code>↑</code>
次のコマンドを表示 (履歴を進める)	<code>Ctrl</code> + <code>N</code> / <code>↓</code>

#### 入力可能なキーワードを表示する

コマンドの入力途中で `Tab` キー (`Ctrl` + `I` キー)、または `(スペース)` (半角) キーを押すと、次に入力可能なキーワード (コマンド、オプション、パラメーター) が一覧で表示されます。

プロンプトの後に `Tab` キーのみを押すと、コマンドの1番目のキーワードが表示されます。

Manager% <code>Tab</code>					
ADD	DESTROY	HELP	QUIT	SAVE	SHOW
CREATE	DISABLE	MENU	RESET	SET	TELNET
DELETE	ENABLE	PING	RESTART		

コマンドの1番目のキーワードを入力し、続けて半角スペースを入力後 `Tab` キーを押すと、そのキーワードに続けて入力できるキーワードが一覧で表示されます。

## 3.4 設定を始める

例として、キーワード「SHOW」に続けて、半角スペースを入力後[Tab]キーを押します。

Manager% <b>show</b> [Tab]					
CONFIG	FDB	LOG	QOS	SNMP	TRUNK
CONSOLE	IGMP	MIRROR	RRPS	STP	USER
DEBUG	IP	PORT	SECURITY	SYSTEM	VLAN
DIAG					

また、キーワードの入力途中に[Tab]キーを押すと、そこまでの入力でコマンドが特定される場合は、キーワードの残りが表示され正しいキーワードが入力されます。該当するキーワードが複数ある場合は、キーワードの一覧が表示されます。

shに続けて[Tab]キーを入力した場合は、SHOW コマンドが特定され、showが入力されます。

Manager% <b>sh</b> [Tab]
↓ [Tab] キー入力後、表示が次のように変わる
Manager% show

sに続けて[Tab]キーを入力した場合は、キーワードの一覧が表示されます。

Manager% <b>s</b> [Tab]		
SAVE	SET	SHOW

### コマンド入力時の注意

- 1行で入力できるコマンドの最大文字数はスペースを含めて255文字です。
- コマンドは大文字/小文字を区別しません。  
ログインパスワードなど一部のパラメータは大文字/小文字を区別します。「コマンドリファレンス」を確認して入力してください。
- コマンドは省略して入力することができます。  
他のコマンドと識別できる文字数までの省略が可能です。例えば、「SHOW PORT=ALL」は「SH P=A」と入力しても実行できます。
- ユーザーレベルによって実行できるコマンドが異なります。  
MANAGER レベルはすべてのコマンドが実行可能です。一方、USER レベルで実行できるのは表示コマンドと一部の設定コマンドのみになります。詳しくは「コマンドリファレンス」を参照してください。

- コマンドの実行結果はすぐに本製品に反映され、再起動を行う必要はありません (DHCP クライアント機能の有効 / 無効設定、VLAN モードの変更時を除く)。ただし、設定内容は再起動すると消去されるので、再起動後にも同じ設定で運用したい場合はSAVE コマンドを実行します。

## メッセージ表示

コマンドの入力後、実行結果や構文エラーを知らせるメッセージが「Info」、「Error」、「Warning」の3つのレベルで表示されます。「Error」はコマンドの実行に失敗したことを示します。「Warning」は、コマンドの実行には成功していますが、注意すべき点があることを示します。

- Info 例：コマンドが正しく実行された場合

```
Manager% set system name=sales 
Info: Operation successful
```

- Error 例：パラメーターに必要な値が入力されていない場合

```
Manager% set ip ipaddress= 
Error: Value missing on parameter <IPADDRESS>.
```

- Warning 例：入力したコマンドによる設定がすでに有効になっている場合

```
Manager% enable telnet 
Warning: Parameter <TELNET> is already enabled.
```

## 表示内容が複数ページにわたる場合

表示される内容が複数ページにわたる場合は、画面下に次のような表示がされます。

```
--More-- (<space> = next page, <CR> = one line, C = continuous, Q = quit)
```

この場合、キー入力によって、次のような操作を行うことができます。

機能	ターミナルのキー
次のページを表示する	<input type="text" value="スペース"/>
次の1行を表示する	<input type="text" value="Enter"/>
最後のページまで続けて表示する	<input type="text" value="C"/>
残りのページを表示せず終了する	<input type="text" value="Q"/>

## 3.4 設定を始める

### オンラインヘルプ

本製品には、オンラインヘルプが用意されています。オンラインヘルプを使用するとコマンドの概要や、コマンドに続くパラメーターとその範囲を表示することができます。

- HELP コマンドを単独で実行すると、使用できるすべてのコマンドが一覧で表示されます。

```
Manager% help 
SHOW PORT[={port-list|ALL}]
SHOW PORT[={port-list|ALL}] COUNTER [REFRESH]
SHOW DIAG
SHOW LOG {[ALL]} [BEGIN=time] [END=time] [COUNT=count] |[STATUS]}
SHOW SYSTEM
SHOW CONSOLE
SHOW IP
SHOW IP FILTER[={PING|SNMP|TELNET|TFTP|FTP|ALL}]
SHOW SNMP
SHOW SECURITY
SHOW SECURITY PORT
SHOW IGMP
SHOW TRUNK
SHOW RRPS
SHOW MIRROR
SHOW VLAN[={vlanname|1..4094|ALL}]
SHOW VLAN PVID
SHOW VLAN MANAGEMENT
SHOW VLAN MODE
SHOW QOS
SHOW QOS PORT
SHOW STP
--More-- (<space> = next page, <CR> = one line, C = continuous, Q = quit)
```



プロンプトだけが表示されている状態で、± キーまたは ? キーを押しても、コマンドの一覧が表示されます。

- HELP に続けてコマンドを途中まで入力すると、入力したキーワードを含むコマンドの構文と、コマンドが1つに限定された場合は説明の1文が表示されます。

```
Manager% help set port 
SET PORT={port-list|ALL} [NAME=port-name]
[SPEED={AUTONEGOTIATE
|10MHALF|10MFULL
|100MHALF|100MFULL}]
[MDI={AUTO|MDI=|MDIX}]
[VLAN={vlanname|1..4094}]
Sets port(s) configuration.
```



---

## コマンドの表記

本書、オペレーションマニュアル(CD-ROM)、およびオンラインヘルプでは、コマンドやパラメーターを次のような構文で記載しています。

コマンドは複数のキーワードをスペース区切りで並べた構造になっています。

**ADD VLAN={vlanname|1..4094} PORT={port-list|ALL} [FRAME={TAGGED|UNTAGGED}]**

大文字	大文字の部分はコマンド名やパラメーター名などのキーワード(予約語)を示します。キーワードは大文字/小文字の区別がありません。
小文字	小文字の部分は値を示します。コマンド入力時には、環境に応じて異なる文字列や数字が入ります。大文字/小文字を区別するものもありますので、各パラメーターの説明を参照してください。
1..4094	1~4094の範囲の数値を指定することを示します。指定できる数値の範囲は、コマンドにより異なります。
{ }	ブレース({ })で囲まれた部分は、複数の選択肢からどれか1つを指定することを示します。選択肢の各項目は縦棒( )で区切られます。例えば、FRAME={TAGGED UNTAGGED}は、FRAMEパラメーターの値としてキーワードTAGGEDかUNTAGGEDのどちらか一方だけを指定することを示しています。
[ ]	スクエアブラケット([ ])で囲まれた部分は、省略可能であることを示します。1つのコマンドに複数の[ ]がある場合は、そのなかのどれか1つを指定しないとコマンドが成立しないものもあります。

## 3.4 設定を始める

### コマンド一覧

#### ポート設定コマンド

SHOW PORT	ポートの状態表示
SET PORT	ポートの設定
ENABLE/DISABLE PORT	ポートの有効 / 無効
ENABLE/DISABLE PORT FLOW	フローコントロールの有効 / 無効
ENABLE/DISABLE PORT FORWARDING	ブロードキャストパケットフォワーディングの有効 / 無効

#### イーサネット統計情報コマンド

SHOW PORT COUNTER	トラフィック統計情報の表示
RESET PORT COUNTER	統計カウンターのリセット

#### システム管理コマンド

TELNET	指定したシステムへの Telnet 接続
PING	指定したシステムへの Ping テスト
SHOW LOG	ログの表示、ログ設定情報の表示
ENABLE/DISABLE LOG	ログの開始 / 停止
SET LOG	syslog の設定
RESET LOG	ログの消去
SHOW DIAG	システム診断テストの結果表示
RESTART REBOOT	本製品の再起動

#### システム設定コマンド

SHOW SYSTEM	システム情報の表示
SET SYSTEM	システム情報、エイジングタイムの設定
SHOW USER	登録ユーザーとログインユーザー情報の表示
ADD/DELETE USER	ユーザーの追加 / 削除
SET PASSWORD	ログインパスワードの変更
SET USER	登録ユーザーの設定変更
ENABLE/DISABLE TELNET	Telnet サーバー機能の有効 / 無効
SET TELNET TCPPOORT	Telnet の TCP ポート番号の設定
SET TELNET LIMIT	Telnet の最大セッション数の変更
ENABLE/DISABLE TFTP	TFTP サーバー機能の有効 / 無効
SET LOADER PASSWORD	TFTPによるファームウェアPut/Get時のパスワードの設定
SET CONFIG PASSWORD	TFTPによる設定ファイルPut/Get時のパスワードの設定
ENABLE/DISABLE FTP	FTP サーバー機能の有効 / 無効

SHOW CONSOLE	コンソールターミナル情報の表示
ENABLE/DISABLE CONSOLE	ローカルログインの有効 / 無効
SET CONSOLE	コンソールターミナルの設定
SHOW IP	IP パラメーター情報の表示
SET IP	IP パラメーターの設定
ENABLE/DISABLE DHCP	DHCP クライアント機能の有効 / 無効
SHOW IP FILTER	IP フィルター情報の表示
SET IP FILTER	IP フィルターエントリーの変更
ENABLE/DISABLE IP FILTER	IP フィルターの有効 / 無効
ADD/DELETE IP FILTER	IP フィルターエントリーの追加 / 削除
SHOW SNMP	SNMP 情報の表示
SET SNMP	SNMP の設定
ENABLE/DISABLE SNMP	SNMP リクエストの有効 / 無効
SHOW SECURITY	ポートセキュリティー情報の表示
SHOW SECURITY PORT	ポートごとのポートセキュリティー情報の表示
SET SECURITY	ポートセキュリティーの設定
SET SECURITY PORT	ポートごとのポートセキュリティーの設定
SHOW IGMP	IGMP スヌーピング情報の表示
SET IGMP AGINGTIMER	IGMP スヌーピング エージングタイムの設定
ENABLE/DISABLE IGMP	IGMP スヌーピングの有効 / 無効
SHOW TRUNK	ポートトランキング情報の表示
SET TRUNK	トランクグループの作成
SHOW RRPS	RRP スヌーピングポートの表示
SET RRPS PORT	RRP スヌーピングポートの設定

## ポートミラーリングコマンド

SHOW MIRROR	ポートミラーリング情報の表示
SET MIRROR	ソースポート・ミラーポートの設定
ENABLE/DISABLE MIRROR	ポートミラーリングの有効 / 無効

## 3.4 設定を始める

### バーチャルLAN/QoS コマンド

SHOW VLAN	VLAN 情報の表示
SHOW VLAN PVID	PortVID 情報の表示
SHOW VLAN MANAGEMENT	マネージメントポート所属 VLAN の表示
SHOW VLAN MODE	現在の VLAN モードの表示
CREATE/DESTROY VLAN	VLAN の作成 / 消去
ADD/DELETE VLAN PORT	所属ポートの追加 / 削除
SET VLAN VLAN	VLAN 名、VID の変更
SET VLAN PORT FRAME	ポートのタグ付き / タグなし設定変更
SET VLAN PORT PVID	PortVID の変更
SET VLAN MANAGEMENT	マネージメントポート所属 VLAN の変更
SET VLAN MODE	VLAN モードの変更
ENABLE/DISABLE VLAN INGRESSFILTER PORT	インGRESSフィルターの有効 / 無効
SHOW QOS	タグプライオリティ情報の表示
SHOW QOS PORT	ポートプライオリティ情報の表示
SET QOS	タグプライオリティの設定
SET QOS PORT	ポートプライオリティの設定

### ブリッジ(スパンニングツリー)コマンド

SHOW STP	スパンニングツリー情報の表示
SHOW STP PORT	ポートスパンニングツリー情報の表示
SET STP	スパンニングツリーの設定
SET STP PORT	ポートスパンニングツリーの設定
ENABLE/DISABLE STP	スパンニングツリーの有効 / 無効

### MAC アドレステーブルコマンド

SHOW FDB	MAC アドレステーブルの表示
RESET FDB	MAC アドレステーブルの消去
ADD/DELETE FDB DESTADDRESS	スタティック MAC アドレスの追加 / 削除

### ユーティリティコマンド

SHOW DEBUG	SHOW LOG ALL/SHOW DIAG/SHOW CONFIGの実行
SHOW CONFIG	設定内容の表示
SAVE	設定の保存
QUIT	ログアウト
HELP	コマンドの表示
MENU	メニュー画面への切替

## 3.5 設定を保存する

### 設定を保存する

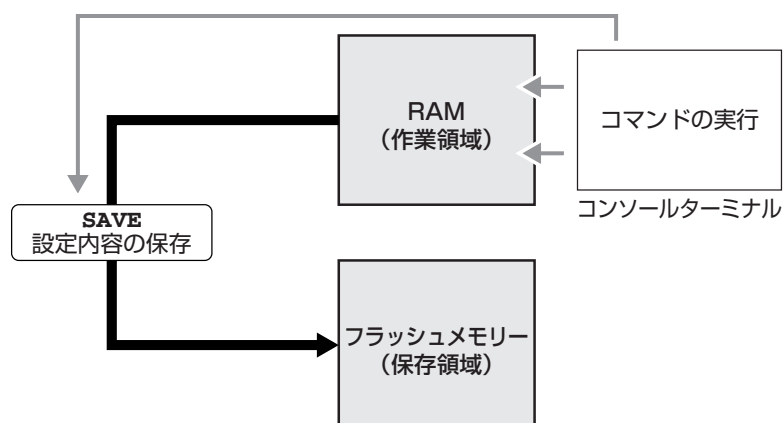
入力したコマンドは実行直後に反映されますが、設定内容はRAM上にあるため、電源ケーブルを抜き差しする、リセットボタンを押す、またはRESTART REBOOT コマンドを実行して本製品を再起動すると消去されます。

再起動後にも同じ設定で運用したい場合は、SAVE コマンドを実行して設定内容をフラッシュメモリーに保存します。



ポートミラーリングの設定は SAVE コマンドで保存されません。

ヒント



#### 使用コマンド

SAVE

#### 権限

Manager

- 1 SAVE コマンドを実行します。

```
Manager% save [Enter]
```

- 2 次のメッセージが表示されたら、**[Y]** キーを押します。  
**[N]** キーを押すと、設定の保存は中止されます。

```
Do save configuration now ? (Yes or No): Yes
```

- 3 設定がフラッシュメモリーに書き込まれると、次のメッセージが表示され、コマンドプロンプトに戻ります。

```
Waiting for Flash writes... done.
```

```
Manager%
```

設定の変更が何も無いときにSAVE コマンドを実行すると、次のような警告のメッセージが表示されます。

```
Warning: Configuration is not updated.
```

## 3.5 設定を保存する

### 設定内容を確認する

SHOW CONFIG コマンドで、現在の設定内容を表示します。オプションで表示する機能の指定もできます。

設定ファイル(config.txt )と同じ形式で、先頭に#が付いたコメント行と設定内容(一連の設定コマンド)が表示されます。

#### 使用コマンド

```
SHOW CONFIG [ALL] [FUNC=functions]
```

#### 権限

Manager

#### パラメーター

- ALL : デフォルト設定を含めたすべての設定内容を表示します。省略した場合は、デフォルト設定から変更した項目のみを表示します(各機能のタイトルは全項目表示されます)。
- FUNC : 指定した機能の設定内容のみを表示します。functionsには、PORT, SYSTEM, LOG, CONSOLE, IP, IPFILTER, SNMP, SECURITY, IGMP, TRUNK, RRPS, VLAN, QOS, STP, FDB, USER, ALLの指定が可能です。複数の機能を指定する場合は、カンマを使用します。ALLを指定した場合は、SHOW CONFIGを実行したときの表示内容と同じになります。

```
Manager% show config func=ip   
##  
## sales Configuration.  
##  
## Copyright (c) 2002-2003, Allied Telesis K.K.  
## All Rights Reserved.  
##  
  
#  
# IP Address Configuration  
#  
SET IP IPADDRESS=192.168.1.10  
SET IP MASK=255.255.255.0  
SET IP GATEWAY=192.168.1.32
```

## 3.6 ログアウトする

設定が終了したら、本製品からログアウトして、コンソールターミナル(通信ソフトウェア)を終了します。

### 使用コマンド

**QUIT**

### 権限

**Manager, User**

- 1 QUIT コマンドを実行します。

```
Manager% quit 
```

- 2 次のメッセージが表示され、セッションが終了します。

```
Quit  
  
Good Bye
```

ログアウトするときに設定の変更が保存されていないと、次のメッセージが表示されます。設定を保存する場合は、 キーを押してください。

```
Do save configuration now ? (Yes or No):  Yes
```



セキュリティのため、コンソールターミナル(通信ソフトウェア)を終了する前に、必ずQUIT コマンドでログアウトしてください。

ヒント





# 4

## 基本の設定と操作

---

この章では、本製品を運用・管理するための基本的な設定と操作方法について説明しています。各機能の詳細については、CD-ROM内の「オペレーションマニュアル」を参照してください。

# 4.1 IPアドレスを設定する

本製品にIPアドレスを設定します。

## 手動でIPアドレスを設定する

### 使用コマンド

```
SET IP [IPADDRESS=ipadd]
      [MASK=ipadd]
SHOW IP
```

### 権限

```
SETIP      Manager
SHOWIP     Manager, User
```

### パラメーター

IPADDRESS : IPアドレス。X.X.X.Xの形式で、Xが0～255の半角数字を入力します。デフォルトはNullです。Nullに戻す場合は0.0.0.0を指定します。

MASK : サブネットマスク。X.X.X.Xの形式で、Xが0～255の半角数字を入力します。デフォルトはNullです。Nullに戻す場合は0.0.0.0を指定します。

- 1 本製品にIPアドレスを設定します。  
ここでは、IPアドレス「192.168.1.10」、サブネットマスク「255.255.255.0」を設定すると仮定します。

```
Manager% set ip ipaddress=192.168.1.10 mask=255.255.255.0 [Enter]
```

- 2 SHOW IP コマンドで、設定を確認します。

```
Manager% show ip [Enter]

IP Address Information
-----
IP address ..... 192.168.1.10
Subnet mask ..... 255.255.255.0
Gateway address ..... Null
Domain Name Server ..... Null
Default Domain Name ..... Null (not configured)
Manager address 1 ..... Null
Manager address 2 ..... Null
Manager address 3 ..... Null
Manager address 4 ..... Null
DHCP function ..... Disabled
-----
```



リモート(Telnet)からユーザーがログインしている場合、IPアドレスの設定はリモートログインしているユーザーがすべてログアウトしたときに有効になります。

ヒント

## DHCPでIPアドレスを自動設定する

ネットワーク上のDHCPサーバーを利用して、本製品のIPアドレスを自動設定することもできます(DHCPクライアント機能)。DHCPクライアント機能はデフォルトで無効(Disabled)に設定されています。



ヒント

SET IP コマンドでIPアドレスを設定している場合は、ENABLE DHCP コマンドでDHCPクライアント機能を有効にしても、SET IP コマンドの設定が優先されます。DHCPクライアント機能を有効にするには、SET IP コマンドでIPアドレスをNull(0.0.0.0)に戻してください。

```
set ip ipaddress=0.0.0.0 mask=0.0.0.0
```



ヒント

DHCPクライアント機能の有効/無効設定は、本製品の再起動後に有効になります。

### 使用コマンド

```
ENABLE DHCP
```

```
SHOW IP
```

### 権限

```
ENABLE DHCP
```

Manager

```
SHOW IP
```

Manager, User

- 1 SHOW IP コマンドでIPアドレスがNullであることを確認します。すでに手動でIPアドレスが割り当てられている場合は、次のコマンドでNullに戻します。

```
Manager% set ip ipaddress=0.0.0.0 mask=0.0.0.0 
```

- 2 DHCPクライアント機能を有効にします。

```
Manager% enable dhcp 
```

- 3 設定を保存するかどうかのメッセージが表示されたら、キーを押します。

```
Do save configuration now ? (Yes or No): Yes
```

- 4 本製品を再起動するかどうかのメッセージが表示されたら、キーを押します。

```
Do reboot system now ? (Yes or No): Yes
```

## 4.1 IPアドレスを設定する

- 5 再起動後、DHCP サーバーから自動的にIP アドレスが割り当てられます。本製品のDHCPクライアント機能では、IPアドレス、サブネットマスクに加え、DNSサーバーアドレスとデフォルトドメイン名の情報も取得・自動設定できます。

```
Manager% show ip   
  
IP Address Information  
-----  
IP address ..... 192.168.1.200 (From DHCP)  
Subnet mask ..... 255.255.255.0  
Gateway address ..... 192.168.1.32  
Domain Name Server ..... 192.168.1.1  
Default Domain Name ..... ultra.allied-telesis.co.jp  
Manager address 1 ..... Null  
Manager address 2 ..... Null  
Manager address 3 ..... Null  
Manager address 4 ..... Null  
DHCP function ..... Enabled  
-----
```

## 4.2 Telnet で接続する

本製品は Telnet サーバー機能、および Telnet クライアント機能をサポートしています。ここでは、Telnet を使用するための設定や操作について説明します。

### Telnet でログインする

本製品の Telnet サーバー機能はデフォルトで有効 (Enabled) になっています。本製品に IP アドレスを設定すれば、ネットワーク上のコンピューターから Telnet を使用してログインできます。

Telnet クライアントに設定するパラメーターは次のとおりです。

項目	値
エミュレーション	VT100

- 1 通信機能が利用できるコンピューターから、本製品に対して telnet を実行します。ここでは、本製品にあらかじめ IP アドレス「192.168.1.10」が割り当てられているものとしてします。

```
telnet 192.168.1.10 [Enter]
```

- 2 Telnet セッションが確立すると、「Login: 」プロンプトが表示されます。



ヒント

Windows 95/98/Me/2000/XP、Windows NT で Telnet を使用する場合は、86 ページ「Telnet クライアントの設定」を参照してください。

### Telnet サーバー機能を無効にする

Telnet 接続を拒否する場合は、DISABLE TELNET コマンドで Telnet サーバー機能を無効にします。

#### 使用コマンド

```
DISABLE TELNET
```

#### 権限

```
Manager
```

```
Manager% disable telnet [Enter]
```



ヒント

リモート (Telnet) からユーザーがログインしている場合、設定変更はリモートログインしているユーザーがすべてログアウトしたときに有効になります。

## 4.2 Telnet で接続する

---

### Telnet サーバーの TCP ポート番号を変更する

Telnet サーバーのリスニング TCP ポート番号を変更することができます。デフォルトは 23 です。

#### 使用コマンド

```
SET TELNET [TCPPOINT=2..32767]
```

#### 権限

Manager

#### パラメーター

TCPPOINT : TelnetサーバーのTCPポート番号。2～32767の半角数字を入力します。デフォルトは 23 です。

```
Manager% set telnet tcpport=120 
```



**ヒント** Telnet サーバーのリスニング TCP ポート番号の変更はすぐに反映されますが、変更前から Telnet 接続しているユーザーには、ログアウトするまで変更前のリスニング TCP ポート番号が適用されます。

---

### Telnet の最大セッション数を変更する

Telnet を使用して同時に複数のユーザーがログインすることができます。Telnet の最大セッション数は、1～4 の範囲で変更することができます。デフォルトは 2 です。

#### 使用コマンド

```
SET TELNET LIMIT=1..4
```

#### 権限

Manager

#### パラメーター

LIMIT : Telnetの最大セッション数。1～4の半角数字を入力します。デフォルトは 2 です。

```
Manager% set telnet limit=4 
```

## 指定したシステムに Telnet 接続する

ローカルから本製品にログインしている場合は、他のシステムに対して Telnet 接続することができます。接続先の指定には、IP アドレスの他、ホスト名、MAC アドレスが使用できます。ここでは、接続先のシステムを「192.168.1.20」と仮定します。

### 使用コマンド

```
TELNET { [IPADDRESS=] ipadd | [MACADDRESS=] macadd | [HOSTNAME=] host }  
[TCPPOINT=tcppoint-number]
```

### 権限

Manager

### パラメーター

IPADDRESS : IP アドレス。X.X.X.X の形式で、X が 0～255 の半角数字を入力します。  
MACADDRESS : MAC アドレス。XXXXXXXXXXXX の形式で指定します。  
HOSTNAME : ホスト名。半角英数字で指定します。  
TCPPOINT : 接続先の TCP ポート番号。半角数字で指定します。指定がない場合はポート 23 へ接続します。

## 1 TELNET コマンドを実行します。

```
Manager% telnet 192.168.1.20 [Enter]
```

次のメッセージが表示されます。

```
Connecting to 192.168.1.20 ...
```

## 2 Telnet セッションが確立すると、「Login:」プロンプトが表示されます。

Telnet セッションを終了するには、QUIT コマンドを実行します。

```
Manager% quit [Enter]  
  
Quit  
  
Good Bye  
Disconnected  
Manager%
```



リモート(Telnet)からログインしている場合、さらに他のコンピューターにTelnet接続をすることはできません。

ヒント

## 4.3 アップロード / ダウンロードする

本製品は、次に示す3種類のファイル(ファイル名固定)を、Xmodemでダウンロード、TFTPやFTPを使用してアップロード/ダウンロードすることができます。

- **ファームウェアのイメージファイル**  
ファイル名「ats59j.img」  
ダウンロードパスワード「ATS59」(TFTPクライアントのリモートファイル名)
- **設定ファイル**  
ファイル名「config.txt」(TFTP/FTPのみ対応)/「config.img」  
ダウンロードパスワード「config」(TFTPクライアントのリモートファイル名)
- **ログファイル**(FTP get コマンドにのみ対応)  
ファイル名「syslog.txt」



ヒント

ファイル名を変更すると、アップロード/ダウンロードすることができなくなりますので、ご注意ください。また、拡張子txtの付いたファイルはテキスト形式、imgはバイナリー形式で保存されています。FTP/TFTPを利用してファイルを転送する際には、ご注意ください。



ヒント

「config.txt」はテキスト形式(行ごとにコマンドを記述)のため編集できますが、「config.img」はバイナリー形式で保存されているため編集できません。設定ファイルのアップロードの際にはご注意ください。

---

### Xmodemでダウンロードする

本製品に、Xmodemでファイルをダウンロードします。ご使用のコンソールターミナル(通信ソフトウェア)がファイル転送機能(Xmodem)をサポートしていない場合は、この機能を利用できませんのでご注意ください。



ヒント

ファイルのダウンロード中は、本製品からRS-232ケーブルを抜かないでください。

- 1** 電源ケーブルを抜き差しする、リセットボタンを押す、またはRESTART REBOOTコマンドを実行して、本製品を再起動します。
- 2** 「Hit any key to run diagnostics or to reload system software. . .」と表示されている間に任意のキーを押します。

```
BOOT Ver3.8
```

```
RAM Test...OK
```

```
Hit any key to run diagnostics or to reload system software.....
```



- 3** Bootメニュー(ATI Diagnostics)が表示されたら、「->」プロンプトに続けて`[X]`を入力し、`[X: XMODEM download updated System Software]`を選択します。

```
ATI Diagnostics

Model: AT-8016XL, Revision Level: A1
MAC Address: 000941592036/000941592036
Serial Number: 0000000000000004
Select an option:

R: RAM Tests
U: UART Tests
A: All of the above Tests
C: Continuous Tests
> S: Single Test

O: Other System Tests
B: BOOT System Software
X: XMODEM download updated System Software

D: Restore all configuration data to factory defaults

M: Memory Byte/Word/Dword
P: Port I/O
Z: Change Terminal Speed
->
```

- 4** リセットシーケンスが開始され、ダウンロードの準備完了のメッセージが表示されます。

```
The System is now ready for download. Please start your XMODEM transfer.
CCCCC
```

- 5** コンピューター(コンソール)から、ファイルを転送します。  
プロトコルタイプには「Xmodem」を選択して通信ソフトウェアのファイル送信を実行します(ファイル転送の手順については、使用している通信ソフトウェアのマニュアルなどをお読みください)。

- 6** ファイル転送が正常に終了すると、次のメッセージが表示されて、本製品は自動的に再起動します。

```
XMODEM transfer has successfully completed. Now writing to Flash PROM.
```

- 7** 「(press RETURN once or twice to enter User Interface)」と表示されたら、`[Enter]`キーを押します。

- 8** 「Login:」プロンプトが表示されます。

## 4.3 アップロード/ダウンロードする

### FTPでアップロード/ダウンロードする

本製品のFTPサーバー機能を使用して、ファイルをアップロード/ダウンロードします。以下の説明は次のような仮定で行います。

- 本製品(FTPサーバー)のIPアドレス「192.168.1.10」
- ユーザー名「Manager」・ログインパスワード「friend」
- FTPクライアント側のコンピューターのディレクトリー「C:¥temp」

- 1 SHOW SYSTEM コマンドで本製品のFTPサーバー機能が有効(Enabled)か確認します。デフォルトは有効(Enabled)です。

```
Manager% show system 

System Information
-----
System name ..... sys1
MAC Aging Time ..... 300 (seconds)
Location ..... Null (not configured)
Contact ..... Null (not configured)

TELNET
Status ..... Enabled
TCP port ..... 23/tcp
Session Limit ..... 2

TFTP
Status ..... Enabled
Download Password ..... ATS59
Config Download Password ..... config

FTP
Status ..... Enabled
-----
```

- 2 FTPクライアント側のコンピューター上でpingコマンドを実行して、本製品とFTPクライアント側の通信が可能かを確認します。通信ができない場合は、設定を見直して通信可能な状態にします。

```
C:\temp>ping 192.168.1.10 
```

- 3 FTPクライアント側でftpコマンドを実行して、本製品のFTPサーバーに接続します。

```
C:\temp>ftp 192.168.1.10 
```

#### 4 ユーザー名とパスワードを入力して本製品にログインします。

```
Connected to 192.168.1.10.  
220 "sys1" FTP server ready  
User (192.168.1.10:(none)): manager   
331 Password required for manager  
Password: friend(表示されません)   
230 User logged in.
```

- 5 ファイルをアップロード(本製品→FTPクライアント)する場合は「get」を、ダウンロード(FTPクライアント→本製品)する場合は「put」を実行します。ここでは、ファームウェアのイメージファイルを本製品にダウンロードするものとします。まずbinコマンドを実行して、FTPの転送モードをバイナリーに変更します。その後、ファイル名(ats59j.img)を指定してputコマンドを実行します。

```
ftp> bin   
200 Type set to I.  
ftp> put ats59j.img 
```

#### 6 ファイルの転送が行われます。

```
200 PORT command successful.  
150 Opening BINARY mode data connection for 'ATS59J'.IMG.  
226 Transfer Complete.  
ftp: 687672 bytes sent in 5.22Seconds 131.74Kbytes/sec.
```

- 7 転送が終了したら、プロンプトの後に「bye」を入力し  キーを押します。これでFTPクライアントの接続が、FTPサーバーから切断されます。

```
ftp> bye 
```



ヒント

FTPクライアントを明示的に切断しないと、FTPサーバー側のタイムアウト機能によりタイムアウト時間(5分)経過後に、本製品は強制的にFTPクライアントの接続を切断します。FTPクライアントの接続を強制的に切断した場合、ダウンロードしたファイルは廃棄されます(手順8には進みません)。

- 8 ダウンロードの場合、ダウンロードしたファイルをフラッシュメモリへ書き込んだ後、本製品は自動的に再起動します。

```
Manager%  
Please wait for FLASH writes to complete.  
This may take up to 1 minute.  
Do not reset, do not remove power.  
The system will automatically reboot.
```



注意

本製品が再起動するまでの間は、絶対に電源を切らないでください。フラッシュメモリへの書き込み中に電源を切ると、本製品を起動できなくなる可能性があります。

## 4.3 アップロード/ダウンロードする

### TFTPでアップロード/ダウンロードする

本製品のTFTPサーバー機能を使用して、ファイルをアップロード/ダウンロードします。以下の説明は次のような仮定で行います。

- 本製品(TFTPサーバー)のIPアドレス「192.168.1.10」
- 1 SHOW SYSTEMコマンドで本製品のTFTPサーバー機能が有効(Enabled)か確認します。デフォルトは有効(Enabled)です。

```
Manager% show system 

System Information
-----
System name ..... sys1
MAC Aging Time ..... 300 (seconds)
Location ..... Null (not configured)
Contact ..... Null (not configured)

TELNET
Status ..... Enabled
TCP port ..... 23/tcp
Session Limit ..... 2

TFTP
Status ..... Enabled
Download Password ..... ATS59
Config Download Password ..... config

FTP
Status ..... Enabled
-----
```

- 2 TFTPクライアント側のコンピューター上でpingコマンドを実行して、本製品とTFTPクライアント側の通信が可能かを確認します。通信ができない場合は、設定を見直して通信可能な状態にします。

```
C:\temp>ping 192.168.1.10 
```

- 3** ファイルをアップロード(本製品→TFTPクライアント)する場合は「get」を、ダウンロード(TFTPクライアント→本製品)する場合は「put」を実行します。リモートファイル名には、本製品に設定されているダウンロードパスワードを指定します(ダウンロードパスワードは大文字/小文字を区別します)。また、ファームウェアのイメージファイルの場合は、転送モードにバイナリー(binary)を指定します。ここでは、Windows 2000 の tftp コマンドの実行例を示します。設定ファイルを C:\temp にアップロードする場合は、次のコマンドを実行します。

```
C:\temp>tftp 192.168.1.10 get config config.txt 
```

設定ファイルを本製品にダウンロードする場合は、次のコマンドを実行します。

```
C:\temp>tftp 192.168.1.10 put config.txt config 
```

- 4** ファイルの転送が行われます。

```
Transfer successful: 1188 bytes in 1 second, 1188 bytes/s
```

- 5** ダウンロードの場合、ダウンロードしたファイルをフラッシュメモリへ書き込んだ後、本製品は自動的に再起動します。

```
Manager%  
Please wait for FLASH writes to complete.  
This may take up to 1 minute.  
Do not reset, do not remove power.  
The system will automatically reboot.
```



本製品が再起動するまでの間は、絶対に電源を切らないでください。フラッシュメモリへの書き込み中に電源を切ると、本製品を起動できなくなる可能性があります。

## 4.4 システム名を設定する

システム名(MIB II オブジェクト sysName)を設定すると、複数のシステムを管理する場合に、各システムの識別がしやすくなり便利です。

### 使用コマンド

```
SET SYSTEM [NAME=system-name]
```

```
SHOW SYSTEM
```

### 権限

```
SET SYSTEM      Manager
```

```
SHOW SYSTEM     Manager, User
```

### パラメーター

NAME : システム名。1～20文字の半角英数字およびアンダーバー(\_)を入力します。空白を含む場合はダブルクォート(")で囲みます。表示は大文字/小文字を区別し、指定した文字列をそのまま表示します。デフォルトはNullです。Nullに戻す場合はNAMEパラメーターに何も指定しないか、「"」で指定してコマンドを実行します。

- 1 SET SYSTEMコマンドを実行します。ここでは、システム名に「StoneAntlers」を設定すると仮定します。

```
Manager% set system name=StoneAntlers Enter
```

- 2 SHOW SYSTEMコマンドで、設定を確認します。

```
Manager% show system Enter

System Information
-----
System name ..... StoneAntlers
MAC Aging Time ..... 300 (seconds)
Location ..... Null (not configured)
Contact ..... Null (not configured)

TELNET
  Status ..... Enabled
  TCP port ..... 23/tcp

TFTP
  Status ..... Enabled
  Download Password ..... ATS59
  Config Download Password ..... config

FTP
  Status ..... Enabled
-----
```

## 4.5 SNMPで管理する

本製品のSNMP機能は常に有効なため、IPアドレスとサブネットマスクを設定すれば、SNMPマネージャーによる管理・設定が可能です。ここでは、本製品からSNMPトラップを送信するための設定を説明します。

### 使用コマンド

```
SET SNMP [GETCOMMUNITY=get-community-string]
          [SETCOMMUNITY=set-community-string]
          [TRAPCOMMUNITY=trap-community-string]

SET IP [MANAGER1=ipadd]
       [MANAGER2=ipadd]
       [MANAGER3=ipadd]
       [MANAGER4=ipadd]
```

```
SHOW SNMP
```

### 権限

SET SNMP	<b>Manager</b>
SET IP	<b>Manager</b>
SHOW SNMP	<b>Manager, User</b>

### パラメーター

GETCOMMUNITY : SNMPのGetに設定するコミュニティ名。1～20文字の半角英数字を入力します。コミュニティ名は大文字/小文字を区別します。デフォルトはpublicです。

SETCOMMUNITY : SNMPのSetに設定するコミュニティ名。1～20文字の半角英数字を入力します。コミュニティ名は大文字/小文字を区別します。デフォルトはprivateです。

TRAPCOMMUNITY : SNMPのTrapに設定するコミュニティ名。1～20文字の半角英数字を入力します。コミュニティ名は大文字/小文字を区別します。デフォルトはpublicです。

MANAGER1～4 : SNMPトラップ送信先ホスト(=トラップホスト)のIPアドレス。X.X.X.Xの形式で、Xが0～255の半角数字を入力します。デフォルトはNullです。Nullに戻す場合は0.0.0.0を指定します。トラップホストは最大4個まで登録できます。

- 1 SET SNMP コマンドでSNMPコミュニティ名を設定します。  
デフォルトのコミュニティ名は不正アクセスに利用される可能性が高いため、変更することをお勧めします。ここでは、Getコミュニティ名を「SwimView」、Setコミュニティ名を「SwimManager」、Trapコミュニティ名を「syslog」と仮定します。

```
Manager% SET SNMP GETCOMMUNITY=SwimView SETCOMMUNITY=SwimManager
TRAPCOMMUNITY=syslog [Enter]
```

## 4.5 SNMPで管理する

- 2 SET IP コマンドでトラップホストを設定します。  
トラップホストを設定しないと、本製品からSNMPトラップは送信されません。ここでは、トラップホスト(MANAGER1)のIPアドレスを「192.168.1.5」と仮定します。

```
Manager% set ip manager1=192.168.1.5 [Enter]
```

- 3 SHOW SNMP コマンドで、設定を確認します。

```
Manager% show snmp [Enter]

SNMP Information
-----
Manager address 1 ..... 192.168.1.5
Manager address 2 ..... Null
Manager address 3 ..... Null
Manager address 4 ..... Null

Get community string ..... SwimView
Set community string ..... SwimManager
Trap community string ..... syslog
```

### SNMPトラップごとに送信先ホストを設定する

トラップごとに送信先のトラップホスト(MANAGER1~4)を設定できます。本製品がサポートするSNMPトラップは以下の表のとおりです。

New Addressトラップ以外のトラップは、デフォルトですべてのトラップホストに送信するように設定されています。New Addressトラップは、デフォルトで送信しないように設定されています。

トラップ名	内容
Cold Start	ハードウェアリセット時に発行
Change Port Link	ポートのリンクアップ/ダウン時に発行
Authentication Failure	異なるSNMPコミュニティ名のメッセージ受信時に発行
Over-Temperature	本製品内の温度異常検出時に発行
New Root	スパニングツリーにおいて、新しいルートへの切り替わり時に発行
Topology Change	スパニングツリーにおいて、トポロジー変更の発生時に発行
Intruder Alert	ポートセキュリティにおいて、不正パケット受信時に発行
New Address	新しいMACアドレスの学習時に発行
Telnet Access	Telnet接続/切断時に発行



## 使用コマンド

```
SET SNMP [COLDSTART={1..4 | ALL | 0}]
        [CHANGEPORT={1..4 | ALL | 0}]
        [AUTHENTICATION={1..4 | ALL | 0}]
        [OVERTEMPERATURE={1..4 | ALL | 0}]
        [NEWROOT={1..4 | ALL | 0}]
        [TOPOLOGY={1..4 | ALL | 0}]
        [INTRUDER={1..4 | ALL | 0}]
        [NEWADDRESS={1..4 | ALL | 0}]
        [TELNETACCESS={1..4 | ALL | 0}]
```

```
SHOW SNMP
```

## 権限

SET SNMP	<b>Manager</b>
SHOW SNMP	<b>Manager, User</b>

## パラメーター

TRAP : トラップホスト番号 (SET IP コマンドの MANAGER1~4 パラメーターで設定)。1~4 の半角数字を入力します。連続する複数の番号を指定する場合は「1-3」のようにハイフンを使用します。連続しない複数の番号を指定する場合は「1,3」のようにカンマを使用します。0 (ゼロ) を指定すると該当するトラップは無効になります。NEWADDRESS 以外のパラメーターのデフォルトは ALL です。NEWADDRESS のデフォルトは 0 (ゼロ) です。

- 1 ここでは、ポートのリンクアップ/ダウン時に発行されるトラップ (パラメーター名 CHANGEPORT) の送信先ホストを MANAGER1 と 3 に設定します。

```
Manager% set snmp changeport=1,3 
```

## 4.5 SNMPで管理する

2 SHOW SNMP コマンドで、設定を確認します。

```
Manager% show snmp 

SNMP Information
-----
Manager address 1 ..... 192.168.1.5
Manager address 2 ..... Null
Manager address 3 ..... Null
Manager address 4 ..... Null

Get community string ..... SwimView
Set community string ..... SwimManager
Trap community string ..... syslog

Get request ..... Enabled
Set request ..... Enabled

Cold Start ..... ALL
Change Port Link ..... 1,3
Authentication Failure ..... ALL
Over-Temperature ..... ALL
New Root ..... ALL
Topology Change ..... ALL
Intruder Alert ..... ALL
New Address ..... --
Telnet Access ..... ALL
-----
```

## 4.6 メニュー形式で設定する

本製品は、コマンドライン形式とメニュー形式の2種類のインターフェースをサポートしています。本製品起動時(ログイン時)は、コマンドラインインターフェースが表示されますが、MENU コマンドの実行により、メニュー画面に切り替えることができます。

### 使用コマンド

**MENU**

### 権限

**Manager**

- 1 MENU コマンドを実行します。

```
Manager% menu [Enter]
```

- 2 ただちにメニュー画面に切り替わり、次のような画面(メインメニュー)が表示されます。

```
Allied Telesis CentreCOM 8016XL Ethernet Switch: 4.1.0J

Main Menu

Command line interface

Port status and configuration

Ethernet statistics

Administration

System configuration

Traffic/Port Mirroring

Virtual LANs/QoS

Bridging

MAC Address Table

Quit
```

コマンドラインインターフェースに戻すには、[Command line interface] を選択します。[C] を入力して [Enter] をキーを押してください。

## 4.6 メニュー形式で設定する

### メニュー形式での入力と画面

#### 画面の表示

現在「有効」(Enabled)に設定されている項目には、「>」マークがついています。選択した項目は、ハイライトで表示されます。

#### 項目を選択する

選択する項目の頭文字を入力して(大文字 / 小文字の区別なし)、ハイライト表示させ、**[Enter]** キーを押します。

同じ頭文字を持つオプションが2つ以上ある場合は、頭文字を複数回入力するか、**[↑]**(上)と**[↓]**(下)の方向キーを使用して、選択する項目をハイライト表示させます(通信ソフトウェアによっては、方向キーが使用できない場合があります)。

ポート番号など数字のオプションは、数字を入力してハイライト表示させ、**[Enter]** キーを押します。1桁の数字と2桁の数字がある場合は、2桁で入力します。例えば、「1」を選択する場合は「**01**」と入力します。

#### 数字や名前を入力 / 削除する

項目を選択し、「->」プロンプトの後に数字や名前を半角英数字で入力して、**[Enter]** キーを押します。

項目を選択したときに入力画面に移動する場合と、項目の入力フィールドに「->」プロンプトが表示される場合があります。

数字や名前を削除する(Nullに設定する)場合は、「->」プロンプトの後に(現在設定されている数字や名前の上から**[スペース]**)を入力して、**[Enter]** キーを押します。

アドレスを削除する場合は「**0.0.0.0**」を入力して、**[Enter]** キーを押します。

#### 画面を移動する

前の画面に戻る場合は、画面一番下の [Return to ~ ...] を選択するか、**[Esc]** キーを押します。

表示項目が一画面におさまりきらない場合は、画面下に [More ...] が表示されます。次の画面を表示するには、この [More ...] を選択して、**[Enter]** キーを押します。

---

## 設定を保存する

設定の変更を行うと、メインメニューの [Quit] が [Quit / Save] の表示に変わります。再起動後にも同じ設定で運用したい場合は、[Save] を選択して設定内容をフラッシュメモリーに保存します。

- 1 メインメニューで [Save] を選択します。  
[S] を入力して [Enter] キーを押してください。
- 2 画面下に次のメッセージが表示されたら、[Y] キーを押します。  
[N] キーを押すと、設定の保存は中止されます。

```
Do save configuration now ? (Yes or No): Yes
```

- 3 設定がフラッシュメモリーに書き込まれると、次のメッセージが表示され、メインメニューの画面が更新されます([Quit / Save] が [Quit] の表示に戻ります)。

```
Waiting for Flash writes... done.
```

---

## ログアウトする

設定が終了したら、本製品からログアウトして、コンソールターミナル(通信ソフトウェア)を終了します。

- 1 メインメニューで [Quit] を選択します。  
[Q] を入力して [Enter] キーを押してください。
- 2 次のメッセージが表示され、セッションが終了します。

```
Quit  
  
Good Bye
```

ログアウトするときに設定の変更が保存されていないと、次のメッセージが表示されます。設定を保存する場合は、[Y] キーを押してください。

```
Warning: Configuration is updated. However, it is not saved at Flash Memory.  
  
Do save configuration now ? (Yes or No): Yes
```

## 4.7 再起動する

本製品をコマンドで再起動します。

### 使用コマンド

**RESTART REBOOT**

### 権限

**Manager**

- 1 RESTART REBOOT コマンドを実行します。

```
Manager% restart reboot 
```

- 2 再起動するときに変更が保存されていないと、次のメッセージが表示されます。設定を保存する場合は、 Y キーを押してください。

```
Do save configuration now ? (Yes or No): Yes
```

- 3 本製品を再起動するかどうかのメッセージが表示されたら、 Y キーを押します。

```
Do reboot system now ? (Yes or No): Yes
```

- 4 「(press RETURN once or twice to enter User Interface)」と表示されたら、再起動は完了です。 キーを押してください。

```
(press RETURN once or twice to enter User Interface)
```

- 5 「Login: 」プロンプトが表示されます。



ヒント

RESTART REBOOT コマンドを実行すると、本製品にログインしていた他のユーザーのログインセッションは強制的に切断されます。



ヒント

本製品には、再起動の方法として次の3つが用意されています。すべて電源ケーブルの抜き差しと同じ、コールドスタート(ハードウェアリセット)です。

- RESTART REBOOT コマンドの実行
- [Administration] メニュー内 [Reset and restart the system] の実行
- 本体前面のリセットボタンを押す

## 4.8 設定を工場出荷時の状態に戻す

すべての設定を、工場出荷時の状態に戻します。

- 1 電源ケーブルを抜き差しする、リセットボタンを押す、またはRESTART REBOOT コマンドを実行して、本製品を再起動します。
- 2 「Hit any key to run diagnostics or to reload system software. . .」と表示されている間に任意のキーを押して、Boot メニュー (ATI Diagnostics) を表示します。

```
ATI Diagnostics

Model: AT-8016XL, Revision Level: A1
MAC Address: 000941592036/000941592036
Serial Number: 0000000000000004
Select an option:

R: RAM Tests
U: UART Tests
A: All of the above Tests
C: Continuous Tests
> S: Single Test

O: Other System Tests
B: BOOT System Software
X: XMODEM download updated System Software

D: Restore all configuration data to factory defaults

M: Memory Byte/Word/Dword
P: Port I/O
Z: Change Terminal Speed
->
```

- 3 「->」プロンプトに続けて  を入力し、[D: Restore all configuration data to factory defaults] を選択します。
- 4 次のメッセージが表示されたら、 を入力します。

```
WARNING: This will erase all current configuration data!Continue ? (Y/N)
```

## 4.8 設定を工場出荷時の状態に戻す

- 5 すべての設定内容が工場出荷時の状態に戻ると、再び「->」プロンプトが表示されます。「->」プロンプトに続けて **[B]** を入力し、[B: BOOT System Software] を選択します。

```
All configuration data has been reset to factory default values.
```

```
->
```

- 6 Bootプログラムが起動し、セルフテストを行った後システムソフトウェアを起動します。「(press RETURN once or twice to enter User Interface)」と表示されたら、**[Enter]** キーを押します。

- 7 「Login: 」プロンプトが表示されます。



注意

工場出荷時設定にリセット中、および Boot 中は、絶対に電源を切らないでください。



## 4.9 デフォルト設定

本製品のデフォルト設定の一覧です。

設定	デフォルト
<b>ポート設定</b>	
通信モード	Auto negotiate
MDI/MDI-X自動切替	Auto MDISet
フローコントロール (IEEE 802.3x PAUSE)	Disabled
ブロードキャストパケットフォワーディング	Forwarding
ポート名	Null
<b>システム管理</b>	
ログ	Enabled
syslogサーバーアドレス	Null
syslogファシリティコード	1 (user-level message)
<b>システム設定</b>	
システム名	Null
エージングタイム	300 (seconds)
Telnetサーバー機能	Enabled
Telnet TCPポート番号	23
Telnet最大セッション数	2
TFTPサーバー機能	Enabled
ファームウェア ダウンロードパスワード	ATS59
設定ファイル ダウンロードパスワード	config
FTPサーバー機能	Enabled
登録ユーザー	Manager
ログインパスワード	friend
ローカルログイン	Enabled
セッションタイムアウト	5 (minutes)
コンソールターミナル設定	8 data bits / 1 stop bit / No parity Full duplex (echo) / 9600 bps
IPアドレス	Null
サブネットマスク	Null
ゲートウェイアドレス	Null
デフォルトドメイン名	Null
DHCPクライアント機能	Disabled

## 4.9 デフォルト設定

設定	デフォルト
IPフィルター	Disabled
IPフィルター デフォルトアクション	EXCLUDE
SNMPマネージャー (トラップホスト) 1~4のIPアドレス	Null
Get コミュニティー名	public
Set コミュニティー名	private
Trap コミュニティー名	public
Get request	Enabled
Set request	Enabled
設置場所 (Location)	Null
管理者 (Contact)	Null
トラップ送信先	SNMPマネージャー (トラップホスト) 1~4 (New Addressのみ0)
ポートセキュリティー (モード)	Automatic
IGMPスヌーピング	Disabled
IGMPスヌーピングエイジングタイム	60 (minutes)
ポートランキング	Null
RRPスヌーピング	Null
ポートミラーリング	Disabled
<b>バーチャルLAN/QoS</b>	
VLANモード	802.1Q Tag Vlan
VLAN名	Default VLAN
ポートプライオリティー	Tag Priority : Use Port Priority : Normal
プライオリティーの設定	Normal priority 0 High priority 7
プライオリティーとキューのマッピング	Mode 5 (High-7-4 : Normal-3-0)
マネージメントポートの所属VLAN	ID=1 (Default VLAN)
インGRESSフィルター	Enabled
<b>ブリッジ (スパンニングツリー)</b>	
スパンニングツリー	Disabled
ブリッジプライオリティー	32768
Max age time	20 (seconds)
Hello time	2 (seconds)
Forwarding delay	15 (seconds)
ポートプライオリティー	128
ポートパスコスト	10/100Mbpsポート : 10 1000Mbpsポート : 4

# 5

## 付 録

---

この章では、トラブル解決、オプションの拡張モジュールの取り付け方法、Windows のハイパーターミナルと Telnet アプリケーションの使用法、本製品の仕様、保証とユーザーサポートについて説明しています。


# 5.1 困ったときに

本製品を使用中になんらかのトラブルが発生したときの解決方法を紹介します。

## セルフテストの結果を確認する

本製品は、セルフテスト(自己診断)機能を備えています。起動時にセルフテストを行い、本製品に異常が発生したときには、そのテスト結果を画面に表示し、異常の内容に応じて動作を制御します。

テスト結果は、メニュー画面および「SHOW DIAG」コマンドで確認できます。

 オペレーションマニュアル「システム診断」 / 「SHOW DIAG」

テスト結果に表示されるセルフテスト項目は次のとおりです。

項目	内容
Flash PROM	フラッシュPROMの状態です。Good/Failedで表示します。
RAM	RAMの状態です。Good/Failedで表示します。
Serial Interface	シリアルインターフェースの状態です。Good/Failedで表示します。
System power	5V/3.3V/2.5V各電源ユニットの供給電圧状態です。Normal/Warning/Failed (読み取り失敗) で表示します。
Temperature	本製品内部の温度状態です。Normal/Warning/Failed (読み取り失敗) で表示します。

## LED 表示を確認する

### ポートLED

各ポートの状態を表示します。

LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	100Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	100Mbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	10Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	10Mbpsでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。
C/D	緑	点灯	Full duplexでリンクが確立しています。
	橙	点灯	Half duplexでリンクが確立しています。
		点滅	コリジョンが発生しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。

## ステータス LED

本製品全体の状態を表示します。

LED	色	状態	表示内容
FAULT	赤	点灯	本製品に異常があります。
		点滅	セルフテスト実行中です。(起動時) フラッシュROMに書き込みを行っています。(運用時) Xmodemでファイルを転送中です。
	—	消灯	本製品に異常はありません。
POWER	緑	点灯	本製品に電源が供給されています。
	—	消灯	本製品に電源が供給されていません。

## トラブル例

### 電源ケーブルを接続しても POWER LED が点灯しない

正しい電源ケーブルを使用していますか

本製品を AC100V で使用する場合は、同梱の電源ケーブルを使用してください。  
AC200V で使用する場合は、設置業者にご相談ください。

電源ケーブルが正しく接続されていますか

電源コンセントには、電源が供給されていますか

別の電源コンセントに接続してください。

### POWER LED は点灯するが、正しく動作しない

電源をオフにした後、すぐにオンにしていますか

電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

### ケーブルを接続しても L/A LED が点灯しない

UTP ケーブルのカテゴリーは正しいですか

10BASE-T の場合はカテゴリー3以上、100BASE-TX の場合はカテゴリー5のUTP  
ケーブルを使用してください。

## 5.1 困ったときに

### UTP ケーブルのタイプは正しいですか

本製品は、MDI/MDI-X自動切替機能をサポートしているため、通信モードがオートネゴシエーションの場合は、接続先のポートの種類(MDI/MDI-X)に関わらず、ストレート/クロスどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

通信モードをオートネゴシエーション以外に固定設定する場合は、MDIまたはMDI-Xのどちらかに設定する必要がありますので、その場合はケーブルタイプに注意してください。接続先のポートがMDIの場合は本製品のポートをMDI-Xに、接続先のポートがMDI-Xの場合は本製品のポートをMDIに設定すれば、ストレートタイプでケーブル接続ができます。

### UTP ケーブルの長さが制限を越えていませんか


10BASE-T/100BASE-TX の場合、ケーブル長は最大 100m と規定されています。

### 接続先の機器の電源は入っていますか

### ネットワークインターフェースカードに障害はありませんか

### 通信モードは接続先の機器と通信可能な組み合わせに設定されていますか

本製品はファームウェアの設定 (SET PORT コマンド) でポートの通信モードを設定することができます。接続先の機器を確認して、正しい組み合わせになるように設定してください。

 オペレーションマニュアル「ポートの設定」 / 「SET PORT」

### FAULT LED は点灯していませんか


本製品に異常が発生した場合は、FAULT LED が点灯したままになります。本体前面のリセットボタンを押す、RESTART REBOOT コマンドを実行する、電源ケーブルを接続しなおすなどして本製品を再起動してください。

 70 ページ「再起動する」  
オペレーションマニュアル「システムリセット」 「RESTART REBOOT」

## L/A LED は点灯するが、通信できない

### ポートが無効 (Disabled) に設定されていませんか

SHOW PORT コマンドでポートステータス (Status) を確認してください。

 オペレーションマニュアル「ポートステータスの表示」 / 「SHOW PORT」

## コンソールターミナルから文字が入力できない

RS-232 ケーブルは正しく接続されていますか

通信ソフトウェアを2つ以上同時に起動していませんか

同一のCOMポートを使用する通信ソフトウェアを複数起動すると、COMポートにおいて競合が発生し、通信できない、または不安定になるなどの障害が発生します。

通信ソフトウェアの設定内容(通信条件)は正しいですか

本製品を接続しているCOMポート名と、通信ソフトウェアで設定しているCOMポート名が一致しているかを確認してください。

また、通信速度(ボーレート)の設定が本製品とCOMポートで一致しているかを確認してください。本製品の通信速度はデフォルトで9,600bpsに設定されています。

## コンソールターミナルで文字化けする

COMポートの通信速度は正しいですか

通信速度(ボーレート)の設定が本製品とCOMポートで一致しているかを確認してください。本製品の通信速度がデフォルトの設定(9,600bps)で、COMポートの設定が9,600bps以外に設定されていると文字化けを起こします。

文字入力モードは英数半角モードになっていますか

全角文字や半角カナは入力しないでください。通常、AT互換機では **[Alt]** キーを押しながら **[全角/半角]** キーを押して入力モードの切り替えを行います。

## ログインできない

ログインセッションの最大数を超過していませんか

本製品のログインセッション数はローカル、リモート(Telnet接続)合わせて5つまで(Telnetのセッション数は1~4までで変更可能。デフォルトは2つ)です。リモートから、Telnetの最大セッション数の指定より多いセッションを同時に開くことはできません。設定が終了したら必ずQUITコマンドでログアウトするようにしてください。

MANAGERレベルのユーザーがすでにログインしていませんか

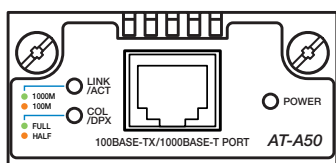
複数のMANAGERレベルのユーザーが、本製品に同時にログインすることはできません。また、MANAGERレベルのログインは、ローカルが優先されます。MANAGERレベルのユーザーがローカルログインしているときに、別のMANAGERレベルのユーザーがリモートログインすることはできません。設定が終了したら必ずQUITコマンドでログアウトするようにしてください。

## 5.2 拡張モジュール

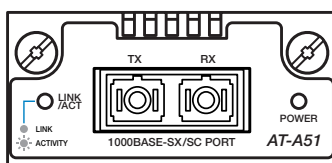
本製品には、オプション(別売)で、3種類の拡張モジュールが用意されています。

LEDの表示内容や製品仕様については、拡張モジュールのインストレーションガイドを参照してください。

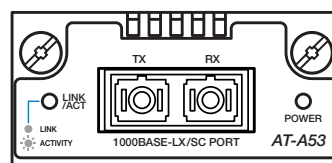
### 拡張モジュールの種類



**AT-A50**  
100BASE-TX/1000BASE-Tポート×1



**AT-A51**  
1000BASE-SX/SCポート×1



**AT-A53**  
1000BASE-LX/SCポート×1

### ケーブル

使用ケーブルと最大伝送距離は以下のとおりです。


ポート	使用ケーブル		伝送距離
100BASE-TX/ 1000BASE-T (AT-A50)	100BASE-TX	UTPカテゴリ-5*1以上	100m
	1000BASE-T	UTPエンハンスト・カテゴリ-5	
1000BASE-SX/SC (AT-A51)	50/125 μm マルチモードファイバー		550m (伝送帯域 500MHz・km時)
	62.5/125 μm マルチモードファイバー		275m (伝送帯域 200MHz・km時)
1000BASE-LX/SC (AT-A53)	9.5 (10) /125 μm シングルモードファイバー		5000m
	50/125 μm マルチモードファイバー*2 62.5/125 μm マルチモードファイバー*2		550m (伝送帯域500MHz・km時)


※ 1 弊社販売品のシールド付カテゴリ-5(ストレート)ケーブルにも対応しています。

※ 2 コネクタと光ファイバーケーブルの間にモード・コンディショニング・パッチコードを使用してください。




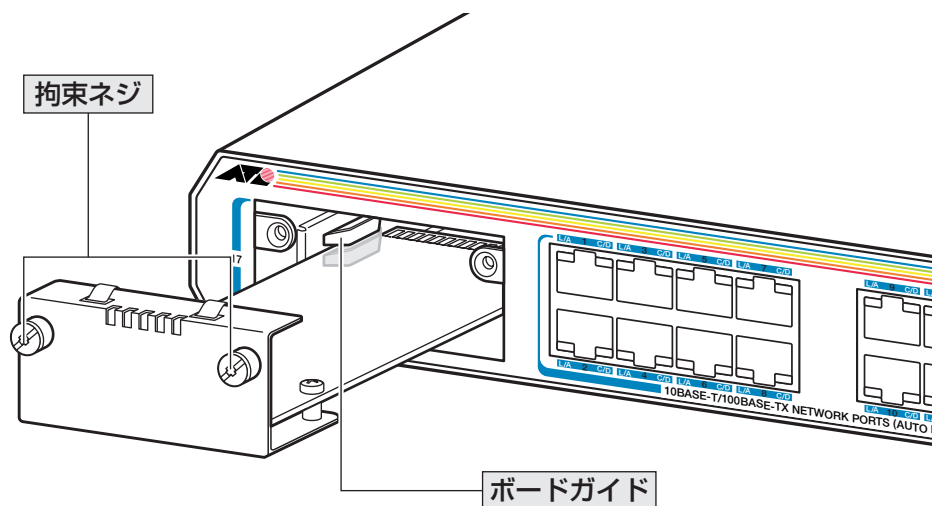
## 拡張モジュールの取り付けかた

 拡張モジュールの取り付け/取りはずし作業は、必ず、電源ケーブルを抜いて、本製品の電源を切ってから行ってください。

 注意 拡張モジュールは、静電気に非常に敏感な部品を使用しています。静電気によって、電子部品が損傷する恐れがありますので、取り扱いの際は、アースストラップを使用するなどの静電防止対策をして、ボード部分にはできるだけ手を触れないようにしてください。  
また、保管するときは、拡張モジュールが梱包されていた静電防止袋に入れて、静電気のある場所を避けてください。

- 1 電源ケーブルを抜いて、本製品の電源を切ります。
- 2 本体前面にある拡張モジュール用スロットのカバーパネルのネジをドライバーでゆるめて、カバーパネルをはずします。
- 3 拡張モジュールのボード部分を、スロットのボードガイドにそって差し込みます。

 注意 ボード部分には手を触れず、拡張モジュールの前面パネルを持って作業してください。差し込むときに、ボード部分をスロットのネジ穴などに当てないように注意してください。



## 5.2 拡張モジュール

- 4 拡張モジュールの前面パネルが本製品の前面パネルとそろり位置まで、拡張モジュールを押し込みます。
- 5 拡張モジュールの拘束ネジをドライバーでしめます。
- 6 以上で、拡張モジュールの取り付けが完了しました。電源ケーブルを接続して、本製品の電源を入れます。

拡張モジュールを取りはずす場合は、拘束ネジをドライバーでゆるめ、前面パネルを持ってゆっくりと引き抜きます。



注意 光ポートには、ほこりなどからコネクタを保護するダストカバーが付いています。光ファイバーケーブルを接続していないときは、コネクタにダストカバーを付けておいてください。



ヒント 拡張モジュールの差し替えを行った場合、ポートの設定や画面表示が、デフォルト値ではなく、差し替え前のモジュールと同じ内容になることがあります。  
拡張モジュールの差し替えを行った場合は、各ポートでサポートされている設定項目をマニュアルでご確認の上、必要に応じて設定しなおすようにしてください。

## 5.3 ハイパーターミナルの設定

コンソールターミナルとして、Windows 95/98/Me/2000/XP、Windows NTに標準装備のハイパーターミナルを使用する例を示します。

(RS-232 ストレートケーブルは、COM1 に接続すると仮定します。)



Windows Me をご使用の場合

ヒント

「ハイパーターミナル」をあらかじめインストールしておく必要があります。

[スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。

[Windows ファイル] タブをクリックし、[ファイルの種類] ボックスで [通信] をクリックします。次に [詳細] をクリックし、[ファイルの種類] ボックスで [ハイパーターミナル] のチェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。[アプリケーションの追加と削除のプロパティ] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。

以上で「ハイパーターミナル」がインストールされます。

### 1 ハイパーターミナルを起動します。

Windows 95 の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[ハイパーターミナル] をクリックします。次に Hypertrm.exe をダブルクリックします。

Windows 98 の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[通信] をポイントします。次に [ハイパーターミナル] をクリックし、Hypertrm.exe をダブルクリックします。

Windows Me/2000/XP の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム(すべてのプログラム)] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[通信] をポイントします。次に [ハイパーターミナル] をクリックします。

Windows NT の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[ハイパーターミナル] をクリックします。

- ### 2 [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。[名前] ボックスで名前を入力し、[アイコン] ボックスでアイコンを選んで、[OK] をクリックします。
- モデムのインストールをするかどうかを問うダイアログボックスが表示された場合は、[いいえ] をクリックします。

## 5.3 ハイパーターミナルの設定

### 3 接続方法を設定します。

Windows 95の場合 - [電話番号] ダイアログボックスが表示されます。

[接続方法] ボックスで、[Com1へダイレクト] を選択して、[OK] をクリックします。

Windows 98/Me/2000の場合 - [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。

[接続方法] ボックスで、[Com1へダイレクト] を選択して、[OK] をクリックします。

Windows XPの場合 - [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。

[接続方法] ボックスで、[COM1] を選択して、[OK] をクリックします。

Windows NTの場合 - [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。

[ポートの設定] タブの [接続方法] ボックスで、[COM1] を選択して、[OK] をクリックします。

### 4 「COM1のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

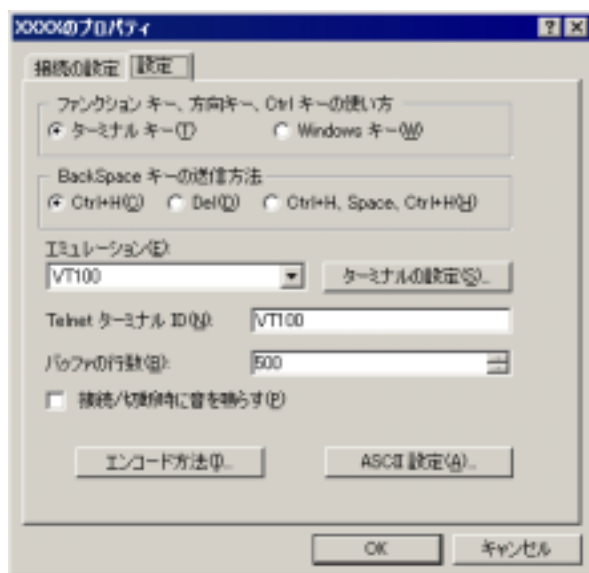
各項目を下図のように設定して、[OK] をクリックします。

(下の画面は Windows XP の場合)



本製品コンソールポートの通信速度はデフォルトで9600bpsに設定されていますが、コマンド (メニュー) で2400bps/4800bps/19200bpsのいずれかに変更することができます。

- 5 「XXXX-ハイパーターミナル(HyperTerminal)」のような、手順2で設定した名前のウィンドウが表示されます。
- [ファイル]メニューの[プロパティ]をクリックします。次に[設定]タブをクリックし、各項目を下図のように設定して、[OK]をクリックします。
- (下の画面は Windows XP の場合)



- 6 以上で、設定が終わりました。
- [Enter]キーを押すとログインセッションが開始され、「Login:」プロンプトが表示されます。



ログインセッションを終了させる場合は、QUITコマンドを実行(メニューの場合は [Quit] を選択)してください。

## 5.4 Telnet クライアントの設定

本製品は Telnet サーバーを内蔵しているため、他の Telnet クライアントからネットワーク経由でログインすることができます。

ここでは、Windows 95/98/Me/2000/XP、Windows NT の Telnet クライアントの設定方法を説明します。



**ヒント** Telnetを使用する場合は、あらかじめコンソールターミナルで本製品にIPアドレスを割り当てておく必要があります。

 **参照** 50 ページ 「IP アドレスを設定する」

### 7 ネットワークに合わせて TCP/IP プロトコルの環境設定を行います。

**Windows 95 の場合**- [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。  
[ネットワークの設定] タブをクリックし、[現在のネットワーク構成] ボックスで [TCP/IP] をクリックします。次に [プロパティ] をクリックして、設定を行います。

**Windows 98/Me の場合**- [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。  
[ネットワークの設定] タブをクリックし、[現在のネットワークコンポーネント] ボックスで、[TCP/IP -> (ご使用のアダプター)] をクリックします。次に [プロパティ] をクリックして、設定を行います。

**Windows 2000 の場合**- [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックします。次に [ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。  
[インターネットプロトコル(TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックして、設定を行います。

**Windows XP の場合**- [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をポイントします。次に [ネットワークとインターネット接続] アイコンをクリックし、[ネットワーク接続] アイコンをクリックします。次に [ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。  
[インターネットプロトコル(TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックして、設定を行います。

Windows NTの場合- [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。  
[プロトコル] タブをクリックし、[ネットワークプロトコル] ボックスで [TCP/IPプロトコル] をクリックします。次に [プロパティ] をクリックして、設定を行います。

各製品に添付されているマニュアルをご覧になり、IPアドレスなどを正しく設定してください。

## 2 Telnetクライアントを起動します。

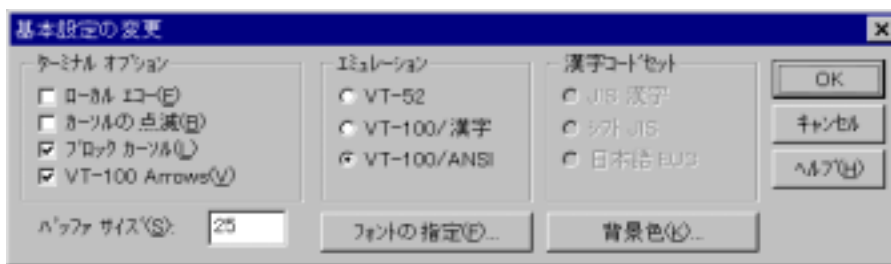
Telnetクライアントは、Windows 95/98/Me、Windows NTの場合Windowsアプリケーション、Windows 2000/XPの場合コマンドラインアプリケーションになります。

Windows 95/98/Me・Windows NTの場合- [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。[名前] ボックスで「**TELNET**」と入力して、[OK] をクリックします。

Windows 2000/XPの場合- [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。[名前] ボックスで「**TELNET**」と入力して、[OK] をクリックします。[名前] ボックスで「**TELNET 192.168.200.1**」のように、TELNETに続けて本製品のIPアドレスを指定することもできます。

## 3 ターミナルの設定を行います。

Windows 95/98/Me・Windows NTの場合- [ターミナル] メニューの [基本設定(設定)] をクリックします。次に [エミュレーション] で [VT-100/ANSI] をクリックし、[OK] をクリックします。



Windows 2000/XPの場合- 次のコマンドを入力して、[Enter] キーを押します。

```
Microsoft Telnet> SET TERM VT100
```

## 5.4 Telnet クライアントの設定

- 4 本製品の Telnet サーバーに接続します。

Windows 95/98/Me・Windows NT の場合 - [接続] メニューの [リモートシステム] をクリックします。次に [ホスト名] ボックスで、本製品の IP アドレスを入力し、[接続] をクリックします。



Windows 2000/XP の場合 - 次のコマンドを入力して、[Enter] キーを押します。OPEN に続けて本製品の IP アドレスを指定します。

```
Microsoft Telnet> OPEN 192.168.200.1
```

- 5 以上で、設定が終わりました。

[Enter] キーを押すとログインセッションが開始され、「Login: 」プロンプトが表示されます。



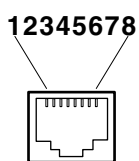
# 5.5 仕 様

ここでは、本製品に関する詳細な情報を必要とする方を対象に、本製品の動作条件や、コネクタのピンアサインなどを説明します。

## コネクタ・ケーブル仕様

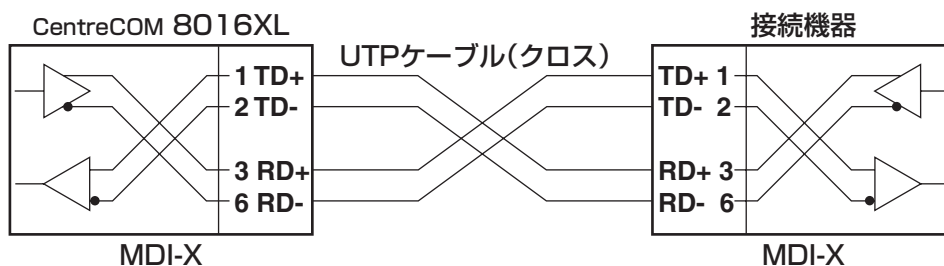
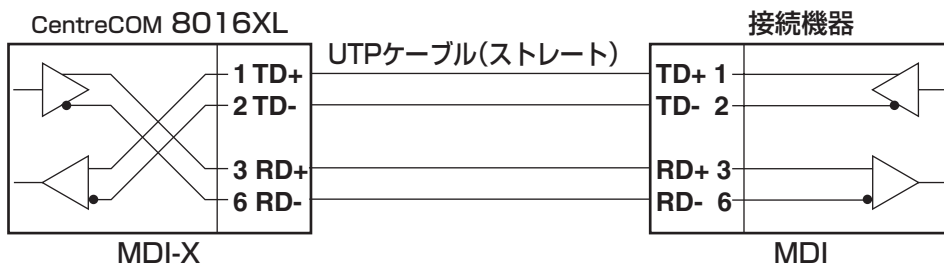
### 10BASE-T/100BASE-TX インターフェース

RJ-45 型のモジュージャックを使用しています。

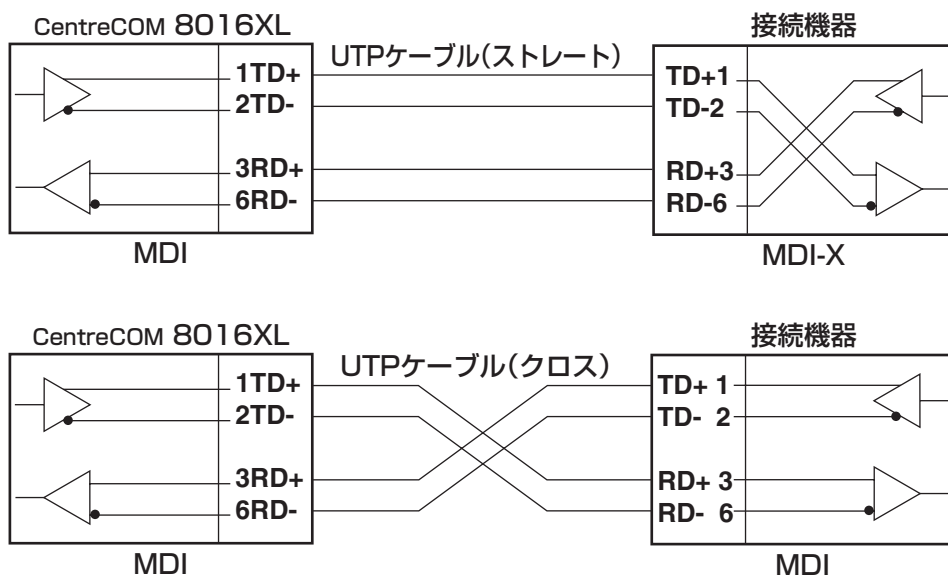


コンタクト	MDI信号	MDI-X信号
1	TD+	RD+
2	TD-	RD-
3	RD+	TD+
4	未使用	未使用
5	未使用	未使用
6	RD-	TD-
7	未使用	未使用
8	未使用	未使用

ケーブルの結線は下図のとおりです。

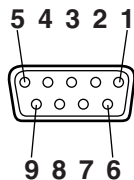


## 5.5 仕様



### RS-232 インターフェース

D-Sub 9ピン(メス)タイプのコネクタを使用しています。



RS-232 DCE	信号名 (JIS規格)	信号内容
1	NOT USED	未使用
2	TXD (TD)	送信データ
3	RXD (RD)	受信データ
4	DSR (DR)	データセットレディ
5	SG (SG)	信号用接地
6	DTR (ER)	データ端末レディ
7	CTS (CS)	送信可
8	RTS (RS)	送信要求
9	NOT USED	未使用

## 本製品の仕様

準拠規格	
	IEEE 802.3 10BASE-T IEEE 802.3u 100BASE-TX IEEE 802.3x Flow Control IEEE 802.3ad Link Aggregation (Manual Configuration) IEEE 802.1D Spanning Tree IEEE 802.1Q VLAN tagging IEEE 802.1p Class of Service, priority protocol
適合規格	
安全規格	UL60950-1, CSA-C 22.2 No.60950-1
EMI規格	VCCIクラスA
電源部	
定格入力電圧	AC100-240V
入力電圧範囲	AC90-264V
定格周波数	50/60Hz
定格入力電流	0.5A (AC100-120V時)
最大入力電流 (実測値) ※ 拡張モジュール未装着時	0.39A
平均消費電力 ※ 拡張モジュール未装着時	18W (最大22W)
平均発熱量 ※ 拡張モジュール未装着時	64kJ/h (最大79kJ/h)
環境条件	
動作時温度	0~40℃
動作時湿度	80%以下 (ただし、結露なきこと)
保管時温度	-20~60℃
保管時湿度	95%以下 (ただし、結露なきこと)
外形寸法 (突起部含まず)	
	341 (W) × 231 (D) × 44 (H) mm
質量	
	2.1kg
スイッチング方式	
	ストア&フォワード
MACアドレス登録数	
	8K (最大)
メモリー容量	
パケットバッファ容量 ※ 拡張モジュール未装着時	480KByte (240KByte×2Chip)
サポートするMIB	
	MIB II (RFC1213)
	ブリッジMIB (RFC1493)
	インターフェース拡張グループMIB (RFC1573)
	イーサネットMIB (RFC1643)
	RMON MIB (RFC1757 [1,2,3,9グループ])
	プライベートMIB

## 5.6 保証とユーザーサポート

---

### 保証

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

#### アライドテレシス株式会社 修理受付窓口

Tel: ☎ 0120-860-332

携帯電話／PHSからは: 045-476-6218

月～金(祝・祭日を除く) 9:00～12:00 13:00～17:00

### 保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)については、当社は、その責を一切負わないこととします。

---

### ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

#### アライドテレシス株式会社 サポートセンター

<http://www.allied-telesis.co.jp/support/info/index.html>

Tel: ☎ 0120-860-772

携帯電話／PHSからは: 045-476-6203

月～金(祝・祭日を除く) 9:00～12:00 13:00～18:00

---

### サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

#### 1 一般事項

- 送付日
- お客様の会社名、ご担当者

- **ご連絡先**  
すでに「サポートID番号」を取得している場合、サポートID番号をお知らせください。サポートID番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡住所などの詳細は省略していただいてもかまいません。
- **ご購入先**

## 2 使用しているハードウェア・ソフトウェアについて

- シリアル番号(S/N)、リビジョン(Rev)をお知らせください。  
シリアル番号とリビジョンは、製品に同梱されている(本体底面に貼付されている)シリアル番号シールに記載されています。また、シリアル番号は、SHOW DIAGコマンドで表示されるシステム情報の「Serial Number」の項でも確認できます。



- ファームウェアバージョンをお知らせください。  
ファームウェアバージョンは、ログイン後またはSHOW DIAGコマンドで表示されるシステム情報の「Version」の項で確認できます。
- オプション(別売)製品を使用している場合は、製品名をお知らせください。

## 3 問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に(再現できるように)お知らせください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容をお知らせください。
- 可能であれば、設定ファイルをお送りください(パスワードや固有名など差し障りのある情報は、抹消してお送りくださいますようお願いいたします)。

## 4 ネットワーク構成について

- 可能であれば、ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図をお送りください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。





